為民献身の道程

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
チュチェ113(2024)

為民献身の
道程

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
チュチェ113(2024)

まえがき

敬愛する金正恩（キムジョンウン）総書記が朝鮮の党と国家を指導してから10余年の歳月が流れた。

5000年を数える朝鮮民族の歴史において10年は一瞬にすぎない。

歴史の閃光とも言えるこの日々、朝鮮では偉大な変革の歴史が開かれた。

朝鮮の各地に人民の文化・情操生活の場と憩いの場、記念碑的建造物が建てられ、近代的な市街と工場が立ち上がった。

この驚異的な変革は決して誰それの援助によるものではなく、条件と環境に恵まれていたからでもない。

この日々、朝鮮人民の生存権と発展権を強奪しようとする敵対勢力の侵略策動と制裁、圧迫は一層強まった。

重なる自然災害と世界的な悪性伝染病も深刻な挑戦となった。

しかし、これら全ての困難も朝鮮の絶え間ない発展を食い止めることはできなかった。

この10余年間、朝鮮に繰り広げられた現実は、国の無尽の発展潜在力と共に国力を非常に高めてきた金正恩総書記の思想と指導の巨大な生命力を如実に示している。

目　次

1．党の政治理念

どの国の党を問わず政治理念を持っており、どのような政治理念を掲げるかによって党の活動とその党の政治の性格が規定される。

朝鮮労働党の指導思想は金日成（キムイルソン）・金正日（キムジョンイル）主義であり、金日成・金正日主義の本質は人民大衆第一主義である。

人民大衆第一主義は人民大衆を革命と建設の主人と見なし、人民大衆に依拠し、人民のために滅私奉仕する政治理念である。

人民大衆第一主義には、人民をこの世で最も貴く有力な存在として押し立てるチュチェの革命哲学が具現されており、人民を限りなく愛し、人民の要求と利益をあくまで実現しようとする朝鮮労働党と共和国政府の確たる立場が反映されている。

これまで朝鮮労働党が国の状況が困難な中でも人民のための施策を変わらず実施し、人民の福祉増進のための活動をねばり強く推し進めてきたのは、党と国家活動に人民大衆第一主義をしっかり具現してきたからである。

朝鮮労働党の人民大衆第一主義政治によって、朝鮮人民は朝鮮労働党を絶対的に信頼して従うようになり、朝鮮には党と大衆が渾然一体となった一心団結の大花園が開かれた。

人民のための座右の銘

今日、朝鮮労働党は人民に対する滅私奉仕の歴史を切り開き、人民の党としてのその姿を一層明確にしている。

これには人民の要求と利益を実現することを最大の重大事とし、人民のためには何一つ惜しまない金正恩総書記の賢明な指導が宿っている。

金正恩総書記は、わが党の最高の表徴は人民の党であるという定式化によって、朝鮮労働党こそ真に人民に尽くし、人民のために滅私奉仕する母なる党であることを明らかにした。

総書記は、2022年2月の朝鮮労働党第2回初級党書記大会で行った歴史的な結語で、党中央は人民が望むことを政策、国策とし、全党の初級党組織はそれを徹底的に実行して人民にその恩恵をこうむらせるのが人民の党の本分を全うする朝鮮労働党の固有の活動方式であり、これがまさに党中央の主張する初級党役割論、初級党重視論であると指摘した。

朝鮮労働党は創立当初から人民の党としての本分を全うしてきた。

金日成主席はつとに、革命家は人民を信頼し、人民に依拠すれば天下を得て百回勝利し、人民を遠ざけて彼らから見捨てられれば百回敗北するということを生と闘争の真理とし、革命の壮途についた初日から生涯の最後の瞬間まで人民のために全てをささげてきた。

金正恩総書記は2012年4月、金日成主席の生誕100周年に際して発表した論文『偉大な金日成同志はわが党と人民の永遠なる領袖である』で、金日成同志の一生は以民為天を座右の銘とし、それを思想と指導に具現して現実として開花させた人民的領袖の崇高な一生であったと強調した。

また、金日成同志にとって人民大衆は常に師であったし、金日成同志は人民の忠実な息子であった、金日成同志は人民の中に入ることから革命活動を開始し、その革命活動は常に人民大衆をよりどころにして行われ、その全過程は人民大衆の自主性を擁護し実現することに尽くされた、金日成同志によって、人民大衆の自主的要求と志向はそのまま思想・理論となり路線と政策となり、人民大衆に容易に理解され、彼らが進むべき運命開拓の真の道を示す最も革命的で科学的な指針がもたらされたと指摘した。

金日成主席を領袖として高く戴いたがゆえに、かつて歴史の外に押しやられていた朝鮮人民が自己の運命を自らの力で切り開いていく歴史の新しい時代、チュチェの時代が開かれたのである。

金日成主席が生涯変わりなく持ち続けた以民為天は、金正日国防委員長にとっても一生の座右の銘であった。

金正恩総書記は2012年7月、朝鮮労働党中央委員会責任幹部と行った談話『金正日的愛国主義を具現して富強な祖国の建設を推し進めよう！』で、金正日的愛国主義は、人民を天のごとく見なす崇高な人民観に基づいているとし、以民為天は金正日同志の生涯の座右の銘であった、金正日同志は、この世に全知全能の存在があるとすればそれは神様でなく人民であると見なした、人民があるがゆえに国もあ

り祖国もあるというのが金正日同志の愛国的信条であったと述べた。

また、金正日同志の愛国の心には、常に人民という二文字が銘記されていた、人民が望むなら空の星もとり、石の上にも花を咲かせなければならないというのが、金正日同志が身につけていた人民愛の崇高な志であり意志であったと切々と述べた。そして自分は今も、広げれば海となり、積み重ねれば天に届く金正日同志の生涯の業績を合わせると人民という一言に帰結するとうたった『人民愛の歌』を耳にするたびに、一生涯人民を心の中に抱いていた金正日同志の慈愛に満ちた姿が目に浮かび、涙を抑えることができないと語った。

いつか金正恩総書記は、わが人民は党がしようとすることは無条件正しいと信じ、党に従うならば豊かに暮らす日が必ずやって来るという信念を抱いてわが党の指導に忠実に従ってきた、「苦難の行軍」時期に自分の家を訪ねた金正日同志が釜の蓋を開けてみた時、小さな手で釜の中の草がゆを覆っていた子供、たとえ凍え死にしても金正日同志の懐を離れて他人の家の軒下には絶対に入らないと誓い、金正日同志の懐により深く抱かれた人々がまさにわが人民であると切々と言った。

金正恩総書記が感慨深く振り返ったこの事実こそ朝鮮人民の真の姿であり、朝鮮労働党と人民の間に結ばれた血縁の情は何をもってしても引き離すことができないということを示した。

金正恩総書記は、2013年1月の朝鮮労働党第4回細胞書記大会における演説をはじめ様々な契機に、金日成同志と金正日同志を戴くように人民を崇め、人民のために全てをささげるのはわが党の確固

たる決心である、幹部と党員は、誰もが金日成同志と金正日同志が一生涯歩んできた人民愛の道をわが党と共にしっかりと歩み続ける真の革命家になるべきであると述べた。

また、金日成同志と金正日同志が天のごとく見なしたわが人民を金日成同志と金正日同志の影像として心に刻み込み、金日成同志と金正日同志を仰ぐように人民に仕えるのがわが党の人民観であると強調し、党中央と志、運命を共にする幹部たちはわが党の人民観を自分の信条、精神とすべきであり、人民の利益と便宜を最優先、絶対視し、人民のために滅私奉仕することを活動と生活の鉄則としなければならないと指摘した。

金正恩総書記は2016年10月の党創立記念日にも朝鮮労働党の人民観について再び明らかにした。

この日、総書記は幹部たちにチュチェの人民観、人民哲学の核は人民に対する滅私奉仕精神である、人民に対する滅私奉仕は、人民の要求と利益を実現することを最大の重大事とし、人民のためならあまたの財産も惜しまず、さらには生命をもためらうことなくささげる人民への限りない愛であり、献身であると述べた。

金正恩総書記が明らかにしたチュチェの人民観、人民哲学に関する思想は、全党に人民への滅私奉仕の気風を確立する指針となり、幹部の人民性を高める滋養分となった。

金正恩総書記は、幹部が人民のためによいことを多くする人民の真の奉仕者になるよう大いに励まし、幹部が人民のために誠実に奉仕するよう導いた。

金正恩総書記は常に幹部たちに、幹部のために人民がいるのでは

なく、人民のために幹部がいるという観点を持って人民に尽くすべきだと強調し、実践的模範によって幹部を人民の真の忠僕になるよう導いた。

2012年の意義深い光明星節(金正日国防委員長の誕生日　2月16日)を迎えて満浦（マンポ）市人民は、金正恩総書記に金正日国防委員長の銅像建立に動員された人民軍軍人に白米100トンを送ることを申し出た。

その報告を受けた金正恩総書記は、誠意はありがたい、しかし、この問題は誠意のみを受けて謝絶する、領袖と血縁的な関係を保持しているわが人民が領袖にささげるこの白玉のような心は、私が金正日同志にその通り報告する、私は道党と市党の活動家たちが、人民の利益と幸福のために生涯の全てをささげた金正日同志の人民愛の崇高な志を体して、彼らが申し出た白玉のような白米を、金正日同志の恩愛として市内の人民と子供たちにそのまま贈ってもらえたらと思う、という親筆を送った。

金正恩総書記は、全党に人民のために滅私奉仕する気風を確立し、党と人民大衆の渾然一体を一層強固にした。

総書記は2012年1月、われわれには金正日同志が大事にしあらゆる恩情を注いで育てた立派な人民と革命軍隊がいる、金正日同志の身近で活動してきた幹部と共にわが人民も自分と志を共にしていると述べた。また、2012年4月に行われた金日成主席の生誕100周年慶祝閲兵式での演説でも、この世で一番善良な朝鮮人民、幾多の試練を乗り越えて党に忠実に従ってきた朝鮮人民が二度と生活に困窮することのないようにし、社会主義的栄耀栄華を思う存分享受できるようにするのがわが党の確固たる決心であると指摘した。

2016年9月、新設された保健酸素工場を訪れた総書記は、この工場には人民が望むなら空の星もとり、石の上にも花を咲かせなければならないという朝鮮労働党の人民観、人民に対する滅私奉仕精神が集約されていると言った。

2020年10月の党創立75周年慶祝閲兵式で行った演説では、金日成同志と金正日同志の心まで合わせて、全国の人民に敬虔な気持ちで感謝のあいさつをささげるとし、わが人民をしっかりと守り、より高く敬い、何羨むものなく裕福な生活をさせるのは自分とわが党の第一の使命であり、確固不動の意志であると厳かに宣言した。

金正恩総書記は、「全党が偉大な人民のために滅私奉仕しよう！」というスローガンを示し、多くの著作で幹部が人民のために靴の底がすり減るほど走りに走ることを重ねて強調し、人民に奉仕する幹部が愛国の玉の汗を流し、靴の底がすり減るほど走りに走ってわが国、わが祖国を富強にし、人民に豊かな生活をもたらすなら、彼らはいつどこにあっても心から労働党万歳を唱えるであろうと述べた。

2016年8月末～9月初め、朝鮮の北辺の豆満江（トゥマン）沿岸一帯で解放後の気象観測以来初の豪雨によって莫大な自然災害が発生した時にも、水害を癒し、被災地を労働党時代の理想郷にするのに総力を集中すべきである、われわれは今回の水害復旧を通じて人民に滅私奉仕するのが朝鮮労働党の党風であることを全世界に再び示さなければならないと切々と言った。

朝鮮労働党と共和国政府にとって世界を襲った保健危機の急速な悪化に類例のない自然災害まで重なった2020年は年初から実に多事多難の日々であり、同時に人民に対する滅私奉仕を活動の根本原則

としている朝鮮労働党と国家の立場が一層はっきり誇示された日々であった。

悪性伝染病のもたらす破局的な結果を予想した朝鮮では、世界保健機関が国際的な非常事態を宣布した日よりほぼ1週間前に国家非常防疫システムが宣布され、国家的な超特級防疫措置を稼動して安定的な防疫形勢を維持した。

年初から招集された党中央委員会政治局会議、政務局会議をはじめとする多くの会議では悪性伝染病の流入の徹底的な遮断を最も重要な議題として討議し、必要な決定を採択し、これを実行するための強力な対策を施行した。

人民の安寧をしっかりと守るための強力な非常防疫活動を展開していた朝鮮労働党と共和国政府の前には、再び全国の各地域を襲った破壊的な自然災害が立ちはだかった。

金正恩総書記は複数の被災地を視察して現地の状況を確かめ、復旧建設のための強力な対策を講じた。

多くの被災者が家屋と財産を失くして臨時居所で不便な生活をしている時、朝鮮労働党が全的にその責任を持ち、人民がなめている苦しみを共に味わい、苦痛を軽減するために彼らにもっと近づくべきであるというのが金正恩総書記の志であり、意志であった。

こうして被災地が短期間に昔日の面影を一新し、この地域の人々が笑いと涙の中に踊りをおどりながら新居入りする光景が見られた。

金正恩総書記は、世界的な保健危機の中で2年3カ月も平穏を保っていた朝鮮に2022年5月に悪性ウイルスが入るという国家最重大非

常事件が発生したその日々にも、われわれの信念と意志、団結によってわれわれ自身の貴重な生命と生活と未来をあくまで守ろうと熱烈に呼び掛け、防疫戦で必ず勝利を成し遂げる決意と意志を重ねて表明した。

また、首都の非常防疫部門に朝鮮人民軍軍医陣を緊急投入するという朝鮮労働党中央軍事委員会特別命令を下達し、緊急解除された国家備蓄医薬品を早急に人民に供給するようにした。

総書記は、今日の防疫大戦は徹頭徹尾人民のための防疫、人民自身が主人となって施行する人民的な防疫だとし、全ての幹部が祖国と人民の安全・安寧に全的に責任を持つという心構えで人民に滅私奉仕するよう重ねて強調した。

このように苦難と試練を乗り越える過程に、朝鮮人民は人民への献身的奉仕を存在方式としている朝鮮労働党と共和国政府の人民的な政治、人民的な施策を肌で感じ、この地、この制度がまさに自らの現在だけでなく未来まで立派に保証するすみかであることを痛感した。

厳しい災害と災難を克服するための緊張した困難な闘争の中で、党と人民との断ち切ろうにも断ち切れない血縁の情は一層厚くなり、党を信頼し従おうとする人民の信頼は一段と強まった。

金正恩総書記は2015年10月の朝鮮労働党創立70周年慶祝閲兵式及び平壌（ピョンヤン）市民パレードで行った演説で、人民大衆のために滅私奉仕してきた朝鮮労働党の歴史を誇り高く総括し、次のように強調した。

「全ての党員たちに訴えます。ともに偉大な人民のために滅私奉仕しましょう！」

このように、金正恩総書記の賢明な指導の下に人民のために滅私奉仕する革命的気風が全党に確立し、党と人民の渾然一体は一層強まった。

人民の中へ

金正恩総書記の現地指導は人民に対する滅私奉仕によって続いている。

2014年6月、寺洞（サドン）区域将泉（チャンチョン）野菜農場の温室を視察した時、汗でぐっしょり濡れている総書記の衣服を見た農場の幹部は、温室の中の温度が43度なので早く外に出てほしいと懇願した。

すると総書記は、大丈夫だ、首都の市民に四季新鮮な野菜を供給することができるなら、ここよりひどい所にもみな行ってみたいと言い、農場を温室野菜生産の典型単位、モデル農場に整備するための方向と方途を一つ一つ教えた。

真夏の猛暑が続いていた2016年8月のある日、大同江（テドンガン）果樹総合農場を訪れた総書記は、リンゴの木に実がたくさん生った、ここで記念写真を撮ろう、リンゴの豊作を背景に写真を撮って大同江果樹総合農場のリンゴの大豊作を人民に見せたいとし、リンゴがたわわに実ったリンゴの木の前で記念写真を撮った。

いつも人民のことを先に思う総書記の真心に幹部たちは目がしらが熱くなった。

総書記は、高山（コサン）果樹総合農場を訪れては三伏の極暑に流れ落ちる

汗を拭きながら、農場の全ての果樹園にリンゴがたくさん生って鉄(チョル)嶺の麓のリンゴの海で果物の香りが漂い、果物が波打つようにすべきだとし、柳京院(リュギョン)を訪れては室温が90度のサウナ室に入ってみた。そして総合サービス船「ムジゲ（虹）」号を視察した時には、「ムジゲ」号は人民のためにわれわれがなすべきことと比べては、一粒の砂だとしかたとえようがない、けれどもわれわれはこんな砂粒を集めて泰山を築き上げなければならないと語った。

数年前、朝鮮西海地区に新たに立ち上がった水産物加工場を国の水産物加工のモデル工場にしようと1月の酷寒と吹雪の中を走ってきた総書記の野戦車の車窓が霧氷におおわれていて幹部たちが激情を抑えることができなかったという話、2019年10月、総書記が咸(ハム)鏡(ギョン)北道の仲坪(チュンピョン)温室農場を視察した時、時間が経って日が暮れはじめたが、ここの温室農場従業員たちがこんなに立派な住宅で暮らすことを思うと踊りでもおどりたい、1カ月に1回でもこんな夜が来るならどれほどいいだろう、今日はここでこの夜を明かしたいと言った感動深い話も、限りなく続く総書記の現地指導の途上で生まれたものである。

2015年に行われた羅先(ラソン)市水害復旧の過程は、人民のために滅私奉仕している朝鮮労働党の本態をはっきりと示した日々であった。

2015年8月末、羅先市の各地域で例年にない集中豪雨によって人民が甚大な被害をこうむったという報告を受けた金正恩総書記は、国防に関する重大な戦略的問題が討議される党中央軍事委員会拡大会議で羅先市水害復旧問題を重要議題として最初に討議するようにし、人民軍が一手に引き受けて党創立70周年以前に復旧を完了

せよとの最高司令官命令を下達した。

そして羅先市水害復旧現場を訪れては、幹部たちに、財宝の中でも最高に貴重な財宝は人民の信頼である、われわれは人民の信頼さえあればそれ以上望むことはないという観点に立ち、滅私奉仕の気構えで人民の信頼に報いなければならないと言った。

党創立70周年が日一日と迫っていた2015年10月、羅先市白鶴（ペッハク）洞を再び視察した金正恩総書記は、人民軍が羅先市水害復旧を終えたという報告を受け、新築なった住宅を先に見て回らないでは気持ちが納まらないようでやって来たと言い、住宅内部をきちんと整えなければならない、われわれはいつどこでどんな仕事をしても人民の声に耳を傾け、それを基準にすべきだと強調した。

2020年に新型コロナウイルスの伝播による世界的な大災難と、次々と朝鮮を襲った台風と洪水による被害が発生した時にも、金正恩総書記の賢明な指導があってこそ災害を早期に癒すことができたのである。

金正恩総書記は、2020年8月の党中央委員会第7期第16回政治局会議で、全力を集中して水害の後遺症を早く癒し、人民に安定した生活を保障する問題を討議・決定するようにした。

総書記は、被害復旧を力強く推し進めて、常に人民の不幸と苦痛を分かち合ってそれを癒し、彼らを見守ってくれるわが党の革命的本態とわれわれの制度の優位性を現実として再び実証すべきだとし、人民に恥じることなく、わが党が自己の聖なる義務を果たして人民の信頼と期待に必ず応えなければならないと重ねて訴えた。そして、党の指導に忠実な人民と軍隊の大団結と協同作戦によって10

月10日まで水害復旧を基本的に終え、住民を安定させるための当面の闘争課題を反映した党中央委員会政治局決定書と党中央委員会、党中央軍事委員会、国務委員会の共同命令書を示達することを提議した。

そうして水害の災厄を払いのけ、一日も早く人民を安定させるための活動は全党的、全国家的、全人民的な活動として力強く展開された。

金正恩総書記が台風と水害の跡がそのまま残っている険しい道を踏み分けて、黄海(ファンヘ)北道銀波(ウンパ)郡大青(テチョン)里の被害現場を訪れた話は、今日も朝鮮人民の間に広く伝わっている。

2020年8月初め、連日の集中豪雨で銀波郡大青里地域では数百世帯の住宅と数百ヘクタールの耕地が浸水し、多数の家屋が倒壊する被害が発生した。

洪水に見舞われた現地に出向いた金正恩総書記は、食糧や生活用品、医薬品など被災地住民の生活保障問題を早急に解決することを党中央委員会の各部署と本部党の家族が全的に担当するよう課題を与え、被災地の郡レベルの指導機関が住宅を失った住民を郡党委員会や郡人民委員会などの事務機関と公共建築、個人世帯に分宿させ、彼らを安定させるための活動を責任を持って行うという緊急措置をその場で講じた。

結果、子供や老人をはじめ被災民が郡党委員会と郡人民委員会の庁舎で生活し、郡党と郡人民委員会の幹部はテントで仕事をする驚くべき現実が繰り広げられた。

同年9月、銀波郡大青里の被害復旧建設現場を再び視察した総書記

は、今、人々が頼るところはわが党と政府しかない、以民為天を座右の銘としているわが党にとって人民の信頼に応えることより重大な活動はない、われわれは被災民が一瞬たりとも落胆したり生活上の不便を感じないようにすべきだと切々と言った。

次いで、今われわれが行っている被害復旧は膨大で困難な事業ではあるが、党と人民の一心団結を一層強化するための重要なことだ、われわれが今日のこの聖なる事業であくまでも守らなければならないのは、党に対するわが人民の信頼であると述べた。

2020年9月初め、台風9号による豪雨と強風で咸鏡南道と咸鏡北道で被害が発生した時にも、金正恩総書記は現地に出向いて被害状況を調べ、首都平壌の全ての党員に公開書簡を送った。

こうして、被害復旧建設地が党と国家が全力を傾けるべき最も重要な地域として選定され、寒さが襲う前に全ての被災者に新しい住宅を提供するのが復旧建設の当面の目標として掲げられた。

人民軍部隊と首都の中核党員で組織された建設集団をはじめ全国の強力な復旧建設陣が被災地に急派され、建設物資が陸路や海上を通じて優先的に緊急輸送された。

全国の工場、企業では被災地に送る復旧建設用資材と被災者の生活用品を増産するために夜を日に継いで生産に拍車をかけ、全国の人民が誠意を尽くして被災民を慰労し支援した。

日を追って変貌する検徳（コムドク）地区の壮大な変革ぶりを目にする検徳の人々にとって、今日も胸が熱くなる話がある。

2020年9月、咸鏡南道検徳地区の被害と復旧建設の規模を検討し、復旧建設を再び人民軍に委任するという党中央軍事委員会命令

書に署名した金正恩総書記は、同年10月に検徳地区を視察した。

総書記の視察を伝え聞いた幹部たちの頭に先に浮んだのは、被害復旧用資材を運搬するために臨時に復旧した危険極まりない鉄橋であった。

洪水に流された橋脚の代わりに木材で臨時橋脚を立てたが、貨物を運搬するたびに少しずつ沈下し、早急に補強する必要があった。

まだ旅客列車の試験運行を一度もしてみなかった危険極まりない鉄橋を通過して検徳地区に入った総書記は、切り立った崖を挟んで55曲がりの峠道を回りに回って住宅区域を訪れた。

検徳の被災民が心配になって、あれほど遠くて険しい道を走ってきた総書記を仰ぎ、幹部たちは目をうるませた。

この日、総書記は検徳地区の被害復旧だけでなく、ここを史上初の山岳峡谷都市、鉱業都市に変える構想を示し、その方向と方途を示した。

総書記のこのような献身の労苦があって、自然の大災厄に襲われた多くの被災地に新しい住宅が立ち上がり、全国に喜びと歓喜を与えた。

共和国に悪性ウイルスの流入という国家最重大非常事件が発生した時から90余日間に行われた総書記の現地指導は、祖国と人民に対する愛と献身によってつながれた偉大な指導の日々であった。

総書記は、数回にわたって行われた党中央委員会政治局協議会と党中央委員会第8期第8回政治局会議、政治局常務委員会会議、党中央委員会第8期第5回総会拡大会議で、防疫危機にしっかりと対処す

るための原則と課題、方途を明らかにし、国家非常防疫司令部と平壌市内の薬局を訪ねて悪性伝染病の危機を最終的に解消し、安定を回復するための活動を精力的に指導した。

総書記は党中央委員会政治局協議会の終了後、その足で平壌市内の薬局を訪ねて医薬品の供給と販売状況を具体的に調べ、最大非常防疫システムが稼動した以降、何の薬が供給されたか、医薬品を規定どおりに保管しているのか、薬局が24時間サービス態勢に移行したのか、患者が訪ねてきた時に相談はするのか、解熱剤と抗生剤はどんなものがあるのか、住民の需要の多い医薬品は何であり、値段はいくらなのかを具体的に確かめた。

この日々に、総書記が常に人民と運命を共にする決意と、一日も早く全ての家庭に平穏と笑顔が訪れることを祈願する気持ちを込めて家庭で用意した常備医薬品を本部党委員会に納めるとし、それを困っている世帯に贈ってほしいと提起した5月の話、家庭で用意した医薬品を本部党委員会に渡しながら、支援医薬品を海州（ヘジュ）市党委員会に送り届け、市党委員会が伝染病を患っている世帯をつぶさに掌握した上で医薬品をいち早く手渡して、治療に少しでも役立ててもらいたいと頼んだ6月の話も生まれた。

総書記が2022年5月の朝鮮労働党中央委員会政治局協議会で、わが党中央が歴史の試練の前で今一度自己の指導的役割を検証される時が来たとし、われわれは何に必要な人々なのか、われわれは誰のために生命までささげて闘うのかをより深く自覚すべき時である、わが党は自己の重大な責務を果敢に果たすであろうし、限りない忠実性と献身をもって祖国の安全と人民の安寧に全面的に

責任を持つであろう、と述べたことは、今日も人民の心に深く刻み込まれている。

金正恩総書記は、幹部であるなら常に人民のことを先に思い、人民生活での難問を解決するため常に思索し、真心を込めて努力しなければならず、人民のためになるよいことをより多くしなければならないと強調してきた。

それゆえ総書記は、誰であれ人民に有益なことをしたという報告を受けるたびにこの上なく喜び、人民に尽くす真の奉仕者になろうと大いに鼓舞激励した。

2015年7月、平壌市人民会議代議員選挙のための選挙場に出向いた金正恩総書記は、トロリーバス事業所の女性運転手と金鍾泰（キムジョンテ）電気機関車連合企業所の職場長に、自身はあなたたちが人民の代表として人民が尊敬し従う人民の忠僕になることを期待して賛成投票すると言いながら投票に参加し、彼らに今後人民のためにより多くの仕事をしてほしいと述べた。

また2021年9月には、党中央委員会本部庁舎で朝鮮民主主義人民共和国創建73周年慶祝行事に参加した労働革新者、功労者たちに会い、国の富強・発展に貢献した自負と誇りを抱いて共和国創建日を迎える彼らに祝意を表し、彼らと意義深い記念写真を撮り、本部党庁舎の庭園で盛大な祝賀宴も催した。

このように、金正恩総書記の為民献身の道があって人民の幸福がもたらされ、人民はその道に喜びと幸せを求める偉大な慈父の姿から富強・繁栄する祖国の未来を確信している。

人民の利益と便益を図って

2013年1月1日は金正恩総書記が歴史的な最初の新年の辞を述べた日である。

朝鮮人民は言うまでもなく、全世界が金正恩総書記の新年の辞に焦点を合わせている時、総書記は「全てを人民のために、全てを人民大衆に依拠して！」というスローガンを提示した。

総書記は2021年1月の朝鮮労働党第8回大会でも、党大会で何らかのものものしいスローガンを掲げるよりも、わが党の崇高な「以民為天」「一心団結」「自力更生」という三つの理念を今一度銘記することで、第8回党大会のスローガンに代えることを提起した。

金正恩総書記は、人民を限りなく尊重し、人民の利益を絶対視し、人民を真の母親のような気持ちで見守らなければならないと強調し、幹部が人民の要求と利益を思考と実践の第一の基準、絶対的基準とし、全ての活動をここに服従させるようにした。

金正恩総書記が2011年12月に金正日国防委員長の逝去で全国が大きな悲しみに沈んでいた追悼期間、幹部が人民の利益と便宜を最優先、絶対視するよう強調し導いたことは、今日も人民の心に深い余韻を残している。

追悼期間に人民の利益を擁護し、便益を徹底的かつ優先的に図ることに重点を置いて全ての行事を手配するようにした金正恩総書記は、医療保障対策、お湯保障対策をしっかり講じ、幹部が机の前に

座ったままで寒い冬の夜の人民のことを心配するだけでなく、現地に赴いて人民を慰労し、彼らと悲しみを分かち、困難な時期を克服していくべきだと強調した。そして、寒い冬の夜、人々が寒さに震えていることを知ったら金正日同志がどんなに胸を痛めるだろうと思いを致して、人民の便宜を最優先し、絶対的に図るよう切々と語った。

金正日国防委員長が生涯の末期の日々に取った措置により、2012年の新年を迎えて首都の住民に供給する魚が到着した時、総書記は金正日同志の愛がそのまま住民に行き届くように魚を有意義に供給するという直筆の指示を与え、特別輸送対策も講じた。

金正恩総書記は2012年だけでも、数回にわたって幹部が人民の利益を最優先、絶対視しなければならない、人民の利益を最も大切にし、何か一つのことを計画しても人民の利益を先に考えるべきであり、ある仕事を手配し展開しても人民の要望の実現を優先視し、献身的に働かなければならないと重ねて強調した。

平壌市のある商店を訪れた金正恩総書記は、2階の七面鳥肉売り場で、お客がそんなに大きく重い七面鳥をどのように手に下げて歩くのかと言い、商店にエレベーターを設置するよう指示した。

総書記は商店を後にするとき、今後設置するエレベーターの問題を再び議論し、商店に早くエレベーターを設置して人民の便宜を図るべきだと言った。

2014年6月、新設された葛麻(カルマ)食品工場を訪れた総書記は、どうすれば人民に美味で栄養価の高い水産物加工品をより多く供給できるかと深く考えて、東海地区に新世紀にふさわしい水産物加工場のモ

デル、標準になる食品工場を一つ立派に建設することを決心してこの工場を建てるようにしたと述べた。そして、幹部にこの工場であれもこれも生産しようとせず、人民の需要の高い水産物加工品を基本製品と定め、製品の質を高めて他の企業はまねをすることもできないようにすべきだと強調した。

何を一つ設計しても、それを利用する人民の意思と生活上の便益を推しはかり、先に人民の意見を聞くのをたがえることのできない鉄則としている金正恩総書記の気高い人民的風格によって、朝鮮労働党が提示する全ての路線と政策は名実共に人民のためのものとなっている。

そうして、朝鮮では数多くの記念碑的建築物が「人民」という名で呼ばれている。

2012年4月のある日。

綾羅(ルンラ)遊戯場の建設状況を具体的に調べた金正恩総書記は、綾羅島地区を総合的に名命する必要があると言った。

おのおの考えを追う幹部たちに、総書記は遊園地の名称で「人民」という二文字を除けば絶対にいけないと念を押した。

しばらく考えにふけっていた総書記は、綾羅島を訪れた金日成同志がこの島を人民の遊園地として立派に整備するよう強調しただけに、綾羅島地区を「綾羅人民遊園地」と呼ぶのがよかろう、一生涯人民のために労苦を重ねた金日成同志と金正日同志の崇高な志からしても、「綾羅人民遊園地」と呼ぶのが一番いいと言った。

2012年1月、万寿橋(マンスギョ)食肉・魚商店建設場を訪れた時には、設計家が商店の設計をしながら人民の便益を最大限に図るべきだと指摘

し、同年5月には倉田(チャンジョン)通りの20階建てのマンションにまで上り、住宅建設では建築効果よりもそこに住む人々の便益を優先視すべきだと強調した。

金正恩総書記は常に人民の志向と要求を最優先し、それを全ての評価の絶対的基準としている。

数年前、金正恩総書記は復旧された黄海北道金川(クムチョン)郡江北(カンブク)里を訪れ、次のように述べた。

今回に豪雨と強風の被害をこうむった江北里を新たに整備したが、住民や農場員が喜んでいるのか、彼らが喜んでいるなら私も本当にうれしい、彼らが喜んだらそれは確かにわが党が仕事をよくしたことを意味する。……

総書記が新しく建てた住宅の台所に入り、実の親のように釜の蓋を開けて中を覗いてみ、居間の天井の高さも確かめながら人民が喜んでいるのかと重ねて尋ねたとき、人民は激情を禁じえなかった。

人民のための愛の道を歩み続ける金正恩総書記の献身の道程にはこのような話もある。

2015年10月のある日、馬息嶺(マシンリョン)スキー場を視察した総書記は、スキーを楽しむ人々がスキー服を着て手袋をはめたまま腕時計を見るのは不便であろう、建物だけでなくスキーコースの一定の区間にも時計を設置しなければならないとし、スキーを楽しむ人々の気持ちまで細やかに気を配った。また、新設の少年団野営所を訪れた日には、大人の背丈に合わせて設置されているテレビを子供たちが気楽に座って観られるように卓の高さを低めるようにしたこともある。

中央動物園の改築工事中に再びここを視察した総書記は、中央動

物園を訪ねる人々が動物舎の見学に不便を感じないように至る所に案内標識板もきちんと設置すべきであると言った。

これらの話は、今日も人民の便益と利益のためなら関心外のことはありえないという金正恩総書記の崇高な志を物語っている。

金正恩総書記は、今首都の市街を走る新型のトロリーバスと路面電車の試運転を自ら指導した。

2018年8月のある夜、総書記はトロリーバスと路面電車を自力で立派に作って、通勤する首都の住民を黄金の座布団に座らせ、社会主義の笑い声を乗せて走らせることがなんと素晴らしいことだろうと言い、人々がぐっすり寝入っている深夜に長いこと試運転を指導した。

これだけではない。

2021年1月の朝鮮労働党第8回大会で、新型の地下鉄電車とトロリーバス、路面電車、旅客バスをはじめとする公共交通手段をより多く生産して人民の便宜を図るべきだという課題を提示し、2021年3月には党中央委員会庁舎で新たに開発したバスと二階建てバスの試作品を見て、党が積極的に後押しするから都市美化にふさわしく、人民の利用に便利な旅客バスを量産すべきであると言い、年次別生産目標も提示した。

2020年8月、水害を受けた黄海北道銀波郡に出向いた総書記は、農場員の意思を十分に反映して設計を立派に行わなければならないとし、同年10月、江原(カンウォン)道金化(キムファ)郡の被害復旧現場を現地で指導する時にも、被害復旧建設で設計と施工に至る建設の全工程が人民大衆第一主義の観点と原則に基づいて展開されなければならないと強調した。

未来（ミレ）商店を訪れた日には、ここの従業員は人民の要求がすなわちサービス活動の基準であるという観点の下に来客の声に耳を傾け、絶えずサービスを改善するために努力しなければならないと強調し、クムコプ・スポーツマン総合食品工場を訪れては、工場の製品が人民に好まれていることを聞き、人民の気に入りさえすれば結構なことだ、全ての評価の基準は人民の評価である、と満足を表した。

2019年10月末、妙香山（ミョヒャンサン）医療機器工場を訪れた総書記は、工場で生産された医療機器を具体的に作動させてから、人民の生命の保護・増進に必要な医療機器を多く作るのも重要だが、何よりも質的に生産すべきであると強調し、これはすなわち人民に対する観点問題であると述べた。

人民の利益と便益を最優先させる金正恩総書記の気高い人民観は、党と国家の重要会議で採択される議案を通じても窺い知ることができる。

金正恩総書記は2021年6月の党中央委員会第8期第3回総会で、わが党が神聖視する為民献身の理念は、実際に粉骨砕身して人民の生命と生活に責任を持ち、無条件的な服務で人民に仕える実践の指針であり、行動の基準であるとし、党は困難な時ほど人民の心の中に一層深く入ってしっかりした支柱になり、常に苦楽を共にし、人民の福利のために全てをささげて闘わなければならないと強調した。そして、人民生活の安定に寄与しようとする気持ちを込めて、自ら署名した特別命令書を下達した。

総会では党の育児政策を改善・強化する問題も討議された。

金正恩総書記は、祖国の未来である子供たちを立派に育てることより重大な事業はない、数万金を投じてもより改善された養育条件を提供しようとするのは、わが党と国家の最重要政策であり、最高の宿願であると強調し、全国の子供たちに乳製品をはじめとする栄養食品を国家の負担で供給することを党の政策として打ち出すことにふれ、その実行のための具体的な課題と方途を明示した。また、2021年12月の党中央委員会第8期第4回総会でも、全国の児童・生徒・学生に国家の負担で制服と学用品を供給するのは党と国家の一貫した政策であると述べ、新しい形態の良質の制服とかばんを全ての児童・生徒・学生に供給するという課題を示し、それを実行するための重大措置を取った。

そうして2022年2月、朝鮮民主主義人民共和国育児法が採択されて、国家の負担で全国の子供に乳製品を供給することが法律的に定着し、新学年度を前にして全国の新入生に一斉に新しい制服が支給された。

総書記は、2021年12月の党中央委員会第8期第4回総会で『朝鮮式社会主義農村発展の偉大な新時代を開いていこう』という歴史的な報告を行い、困難な状況下で経営活動を行っている協同農場の全般的な財政実態を詳細に分析した上で、わが国の農村が独り立ちできるようにし、農場の経済的土台を補強するための重要な対策の一環として、協同農場が国家からの貸付金を償還できなかった分を全て免除する特恵の措置を宣布した。

完工を間近にした松新（ソンシン）・松花（ソンファ）地区1万世帯住宅建設場を視察した総書記は、住宅建設は全人民が喜び、うれしく思う事業である、こ

のように国策は人民性を帯びなければならない、わが党、わが国、わが制度は人民の党、人民の国、人民の天下であり、わが党の全ての政策は人民のための政策であると強調した。

2022年4月、普通（ポトン）江川岸段々式住宅区竣工式に出席した時にも、激情の涙を流しながら感謝のあいさつをささげる新宅の住人たちに、人民のための無条件的な奉仕を党風としているわが党にとって人民の天下という言葉は単なる標語ではない、自分の主権を自分の手でしっかりと支えるわが人民はこの地の全ての文明と幸福を当然享受すべき堂々たる主人であると語った。

金正恩総書記が人民の利益と便益を最優先させてきた全過程は、幹部の心に人民のためにはどんな真心を尽くすべきかを刻み込んだ日々であった。

2. 豊かな物質生活のために

朝鮮の2010年代は、朝鮮人民が経済建設と人民の生活向上のための新たな跳躍台を築いた年代とも言える。

決して条件がよかったからではなく、歳月がもたらした偶然の結果ではなおさらない。

これは全的に、この地に素晴らしい人民愛の世界を繰り広げ、尽きることのない創造の熱気で限りない変革の歴史を綴っていく金正恩総書記の賢明な指導のたまものである。

金正恩総書記は常に、人民に裕福で幸せな生活を享受させることを朝鮮労働党の最大の重大事と見なしていた。

総書記は、2022年12月の党中央委員会第8期第6回総会拡大会議で、国家経済の安定的発展を保ち、人民の生活向上に実際の変化をもたらすことを、朝鮮労働党が最も重視し、力を入れて進めるべき政策的課題として提示した。

総書記は、常に人民生活問題の解決を総体的な目標として掲げ、党と国家の活動全般をここに指向させるようにし、この地にチュチェの社会主義楽園を打ち建てて人民が社会主義の万福を思う存分享受できるよう、大きな労苦と心血を注いでいる。

農業の発展に力を入れて

昔から「農は国の大本」と言われてきた。まして、今日農業生産を飛躍的に増やして人民の食糧問題、食の問題を円滑に解決することは、朝鮮において社会主義強国建設の偉業を立派に実現していく上で重大な問題となっている。

そのため、金正恩総書記は多くの著作と教示で、人民生活を絶えず向上させる上で現段階における最も差し迫った問題は人民の食の問題、食糧問題を解決することだと強調し、国の農業発展のために大きな心血と労苦を注いだ。

金正恩総書記は、2023年3月に開かれた党中央委員会第8期第7回総会拡大会議で、「全国が奮い立って農業生産に根本的な変革をもたらそう！」というスローガンを提示し、今年の穀物の生産目標を達成するのは党中央委員会第8期第6回総会拡大会議で示された今年の12の目標の達成において最も重要な支配的目標だと明示した。

また、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第14期第7回会議で行った施政演説では、新時代の農村革命綱領を掲げて農村の振興を促さなければならないとし、農村の振興は即ち社会主義農村問題の解決であり、社会主義の防衛戦であると言った。

この他にも様々な機会に、われわれが強大になり豊かな暮らしをすることを望まない帝国主義者は、わが国に対する圧力と経済制裁を強化して、わが人民を食糧難に陥れ、人民の社会主義に対する信

念を崩そうと卑劣な策動を行っているとし、われわれはなんとしても農業を立派に営んで人民の食糧問題、食の問題を円滑に解決することによって、敵の反共和国・反社会主義策動を粉砕しなければならないと言った。

金正恩総書記は農業部門で科学農業熱風を巻き起こし、多収穫運動を力強く繰り広げるようにし、ここでも党の種子革命方針の貫徹に主力を傾注するようにした。

2014年2月、全国農業部門分組長大会の参加者に送った歴史的書簡で、農業においては種子が基本だとし、農業部門では種子の問題をキーポイントとしてとらえ、その解決に第一の関心を払うべきだと言った。そして、わが国の気候風土条件の下で収量が多くて肥料が少なくて済み、生育期間が短く、干ばつや風雨、病虫害をはじめ種々の被害によく耐える品種を作り出し、外国から多収穫品種を買い入れて導入することにも関心を払うべきだと言った。

2017年9月に1116号農場を訪れては、多収穫品種の農作物を大変満足げに眺めながら、今や科学農業は素晴らしい、種子革命は素晴らしいという歌も出なければならない、自分にはあの稲やトウモロコシの海がそよぐ音が、金日成同志と金正日同志があれほど念願していた大豊作の歌声、社会主義勝利の凱歌、人民の幸せに満ちた笑い声のように聞こえる、と言った。そして、この農場の幹部と勤労者は農業において種子が基本だというわが党の種子革命方針の正当性と生命力を実践をもってはっきり実証した、全ての単位が彼らの経験から多く学ぶべきだと強調した。

総書記は、2018年12月に開かれた第4回全国農業部門熱誠者会議

で、党の農業革命方針貫徹のための活動で収められた成果と経験、教訓を分析、総括し、科学農業熱風、多収穫運動の炎を一層強く燃え上がらせて、党の示した穀物の生産目標を必ず達成するための課題と方途を討議するようにした。

国の穀物生産問題、人民の食糧問題に深い関心を払い、その解決のために心血と労苦を傾けている総書記の限りない献身の道程には、現地指導の際、高温現象と日照りが続く時に降る雨は黄金の雨だ、農作によい黄金の雨だけにそのまま打たれようとして降り注ぐ雨に当たった話、台風13号が刻一刻と押し寄せていた2019年9月のある日、台風の強度と予想経路、特性について随時に調べ、農業部門が一番気にかかる、農業部門のこうむる被害は返上できないともどかしげに言った話、水害をこうむった黄海北道銀波郡大青里の泥道を歩いて水田の中に入り、稲穂当たりの粒の数を数えてみた話もある。

数年前、金正恩総書記が現地指導の道を歩み続けていた時のことである。

車窓を通じて通り過ぎる田に目を凝らしていた金正恩総書記は、作柄が格別に良好に見えるある水田のそばに車を止まらせ、稲株の粒の数と重さを確かめてみた。

この日、総書記が見事に実ったその一粒一粒の稲の粒から見て取ったのは、春も夏も休まず真心を込めて田畑の手入れをしてきた篤農たちの姿であり、不利な条件の下でも誠実な汗と努力を傾けている農業勤労者の愛国の心であった。

総書記は、第4回全国農業部門熱誠者会議の参加者と共に記念写

真を撮った時、党の農業第一主義方針の貫徹のための活動で先駆的役割を果たして労働英雄称号を授かった功労者たちに、今後豊作をもたらして再会しようと激励の言葉を述べ、党中央委員会第8期第4回総会では、不利な条件の下でも農業を立派に営むことに積極的に寄与した農業部門の模範的な活動家と勤労者、科学者、技術者に党中央委員会の名で感謝を送ることを総会に提議した。

全国の農業勤労者を大いに感動させたその日の光景こそ、総書記の心の中に農業勤労者がどんな姿で宿っているかを改めて感じさせる歴史的瞬間であった。

金正恩総書記は、農業勤労者が収めた成果を一番喜び、国家的な重要行事のたびに彼らを招き、誰もが見習うべき愛国者、英雄として押し立てている。

農業の総合的機械化を穀物の生産を増やすための重要な方途の一つとして示した金正恩総書記は、能率的な農業機械と農機具を考案、導入して農作業の機械化比重を決定的に高めるようにした。

2015年8月初めに農業機械展示場を訪れた金正恩総書記は、農業の総合的機械化を実現して農業勤労者を骨の折れる労働から解放するのは金日成同志と金正日同志の念願であったとし、われわれは近代的で能率的な農業機械を多く生産して農村に送ることによって、農業勤労者を骨の折れる労働から解放するためにあらゆる労苦を重ね心血を注いだ金日成同志と金正日同志の念願を必ず実現しなければならないと強調した。

総書記のこの日の現地指導は、農業の総合的機械化を一日も早く実現し、農業の科学化、近代化の水準を絶えず高めて農業勤労者を

骨の折れる農作業から解放し、農業部門で新たな勝利の突破口を開く上で重要な契機となった。

それだけではない。

総書記は、2015年12月の1年が暮れてゆく日にも農業部門を一日も早くもり立てなければならないとし、なんとしても農業部門をもり立てて人民の食糧問題、食の問題を解決しなければならない、近代的な農業機械と農機具をたくさん作って、近い将来に農業生産で機械化の比重を決定的に高めるための活動を力強く推し進めなければならないと言った。そして、農業部門をもり立てるためには農作業を決定的に機械化すべきである、農作業を機械化してこそ農民たちを骨の折れる農作業から解放し、穀物の生産を増やすことができると言った。

2016年、金正恩総書記の崇高な志を体した各部門の工場、企業では、歴史的な第7回党大会に際して能率の高い農業機械を生産し、党大会に忠誠の勤労の贈り物として贈呈した。

2016年5月、機械設備展示場を訪れた総書記は、新型の80馬力トラクターと新たに製作した各種の農業機械を一つ一つ見て回り、わが国の実情に合わせて実用的に作ったと高く評価した。

2017年11月、総書記は金星(クムソン)トラクター工場を現地で指導する際、工場で生産した数百台の新型の80馬力トラクターを見て素晴らしい、本当に立派だと称え、第7回党大会以後、ここの労働者たちは党から与えられた課題を立派に遂行して労働者階級の本態を固守した、と重ねて評価した。

その後、総書記は金星トラクター工場を、農業の総合的機械化の

実現を確実に裏付ける中核工場に変えることに深い関心を払い、賢明に導いた。

こうして、2022年に改造・近代化の1段階目標が完遂され、性能の高いトラクターと農業機械を量産できる強固な土台が築かれた。

金正恩総書記は、国の最大の農業道である黄海南道を重視し、農業生産において先駆的役割を果たすよう格別の関心を払い、軍需工業部門で新たに作った5500台の農業機械を道内の農場に送るようはからった。

金正恩総書記は、国の果樹栽培業の発展にも深い関心を払った。

2017年11月、全国果樹栽培部門熱誠者会議を有意義に行うようにした総書記は、参加者たちに『果樹栽培業発展に新たな転換をもたらそう』という歴史的な書簡を送った。

総書記は書簡で、国の果樹栽培業をもり立てることは人民に四季にわたっておいしい果物を供給しようと心を砕いてきた金日成同志と金正日同志の念願と遺訓を貫徹するための重要な事業である、果樹栽培部門の全ての幹部と勤労者は、金日成同志と金正日同志の崇高な志と遺訓、党の方針を胸に刻み、奮発して果樹栽培業の発展に転換をもたらさなければならないと強調した。

2013年6月、高山果樹農場(当時)を現地で指導した総書記は、たわわに実ったリンゴを手にとって、リンゴが本当に大きくて芳しい、このリンゴを食べながら喜ぶわが子供たちと人民の姿が目に浮かぶ、非常に満足に思う、一日も早くわが子供たちと人民にこのリンゴを送らなければならないと言った。そして、2016年8月、大同江果樹総合農場を訪れては、より多くのリンゴを生産して人民に

送るのは単に責任を果たすためではなく、金正日同志が積み上げた不滅の愛国・愛民の業績を輝かせるための事業であり、金正日同志の戦士、教え子であるわれわれが守らなければならない気高い義務であり、徳義であると語った。

2017年9月、クァイル郡を現地で指導した際には、リンゴ畑に入って、枝が曲がるほどたわわに実ったリンゴを一つ一つ手でさわってみたり、取ってみたりした。

このように、次々と農場を訪ね歩き、現地指導の道に人民愛の気高い足跡をしるした金正恩総書記の献身は、果樹栽培部門の幹部と勤労者を一層力強く激励した。

金正恩総書記は、人民に新鮮な野菜を供給するために常に心を砕き、絶え間ない現地指導の道を歩み続けた。

金正恩総書記は、2012年9月、能力が拡張された平壌野菜科学研究所を現地で指導する際、野菜は人々の食生活で欠かせない総合ビタミンも同然のものだとし、わが国の風土に合わせておいしくて栄養価の高いいろいろの優良品種を多く栽培・生産して人民に十分に供給するよう強調した。

2014年6月、寺洞区域の将泉野菜農場を現地で指導した総書記は、金日成同志と金正日同志の不滅の指導事績がこもっているこの農場を21世紀の温室野菜生産の模範農場、モデル農場に立派に整えるという構想を示し、1年足らずの短期間に農場の様相を完全に一新させるよう導いた。

金正恩総書記は、咸鏡北道の各部門の事業を現地で指導していた日々に、道内の人民のために軍事基地を撤収させ、大規模温室農場

と育苗場を建設するという遠大な構想を示し、2018年7月には現地へ出向いて敷地を確定した。

飛行場区域の広い沃土をしばらく眺めていた総書記は、ここに100ヘクタールの温室農場を建設すれば素晴らしいだろう、これだけの温室面積ならば咸鏡北道内の人民の需要を十分に満たすことができるだろう、今日は気持ちがよい、このように人民のための甲斐のある仕事を一つ一つ探してやる時が一番うれしいと言い、非常に喜んだ。

2019年、再び農場を訪れた総書記は、たわわに実った各種の野菜の実を眺めながら、この新鮮な野菜の香りはなんと芳しいものか、美しい花の香りがいくら多くても、人民に供給するこの野菜の香りよりは芳しくないだろう、と語った。

ついで咸鏡南道咸州(ハムジュ)郡連浦(リョンポ)地区に大規模の温室農場を建設することを構想した総書記は、2022年2月、温室農場建設の着工式に出席して自ら鍬入れをし、発破のボタンを押した。

この日、総書記は人民の家々に満ちあふれる明るい笑顔を描き見、それによってより富強になる祖国の明るい明日を見通し、力を出して人民のための創造物を一日も早く打ち建てよう、と呼びかけた。

金正恩総書記のエネルギッシュな指導の下、温室農場は党と国家の最も重要な建設政策課題として策定され、成功裏に推し進められて、新時代の文明を誇る一つの大農場地区がその年の10月に完工の日を迎えた。

平壌市民のための江東(カンドン)温室農場建設を提起した金正恩総書記

は、2023年2月、温室農場建設の着工式に出席して自ら鍬入れをした。

金正恩総書記が火を点じた野菜栽培熱風が全国に燃え広がる中、国の至る所で野菜栽培の科学化、集約化を高いレベルで実現し、人民に四季にわたって新鮮な野菜を生産・供給できる強固な土台が築かれた。

金正恩総書記は、『洗浦（セポ）地区畜産基地の建設を推進し、畜産業の発展に新たな転換をもたらそう』をはじめ多くの著作と教示で、国の畜産業を積極的に発展させて、食肉と卵をはじめとするより多くの畜産物が人民に行き渡るようにすべきだとし、その実現のための課題と方途を具体的に示した。

畜産部門の複数の牧場と育種場を訪れた総書記は、畜産の基本は種子だとし、牧場で生命力が強く、生産性の高い優良品種の牛をより多く育成する問題、優良品種の豚の固有の特性を維持・改良するための活動に力を入れる問題、牧場で飼っている優良品種のヤギや羊をわが国の自然地理的特性に即して育成し、広めるための活動を力強く推し進める問題などを具体的に示した。

2012年8月、ある総合牧場を訪れては、牧場の各所を見て回りながらそこの幹部たちに、人民に肉類、卵、牛乳など栄養価の高い副食物を多く提供すべく、生前、労苦を尽くし心血を注いだ金正日同志の念願を必ず叶えなければならない、と強調した。

2016年8月、大同江養豚工場を現地で指導した総書記は、工場を指導業績が秘められている単位らしくより立派に整えるだけでなく、生産を高いレベルで正常化できるよう科学的な畜産システムを

確立し、果樹と畜産の環状循環生産システムを完璧に構築するための活動に力を入れるよう指示した。

金正恩総書記が畜産部門の各単位を自ら訪れて行った教示には、国の畜産業の発展に画期的な転換をもたらすことによって、人民の食生活をより豊かなものにしようとする総書記の確固たる決心と意志がこもっている。

金正恩総書記は、洗浦地区に大規模の畜産拠点を建設するための膨大な工事を提起し、この活動を大自然改造事業として力強く展開して、国の畜産業の発展に根本的な転換をもたらすよう導いた。

こうして建設者たちは、2012年の末に着工してからわずか数年も経たないうちに数万ヘクタールの台地の開墾と自然牧草地の整理を終え、数千ヘクタールの人工牧草地を造成し、数万匹の家畜を確保し、数百棟の生産建物と住宅を建設して、2017年10月、落成の日を迎えた。

水産業における変革

金正恩総書記は、水産部門を人民の生活向上のための主要部門として押し立て、水産業を決定的にもり立ててこの地に黄金の海の新しい歴史が開かれるよう導いた。

総書記は古典的著作『水産部門をもり立て、水産業の発展に新たな転換をもたらそう』『水産部門で黄金の海の新しい歴史を創造するための闘争を力強く展開しなければならない』で、国の水

産業発展に積み上げた金日成主席と金正日国防委員長の不滅の指導業績と、現段階において水産業の発展に新たな転換をもたらす上で提起される課題を具体的に示した。

金日成主席はつとに、海をひかえている所では海をよく利用しなければならないとし、水産業を発展させて人民に魚類を十分に供給するために労苦を尽くし心血を注いだ。

金正日国防委員長は、生涯の最後の時期まで各地の水産基地を視察して、水産業を活性化するための方向と方途を示したばかりでなく、捕った魚を輸出せずに人民に供給する措置を取った。

金正恩総書記は、人民に魚を十分に食べさせるために心血を注いでいた金正日同志のことを考えると胸がふさがる思いがする、2011年12月17日、金正日同志が現地指導の道で思いがけなく殉職したという悲報に接して、金正日同志のところへ駆け付けてみると、列車執務室の机の上には首都の市民に魚を供給するという文書が置かれていた、その文書は、金正日同志が最後に検討した文書である、と言った。そして、わが党が今日、水産部門を重視し、水産業の発展に大きな力を入れているのは、まさに金正日同志の懇切な遺訓を守って人民により多くの魚を供給するためだと今一度強調した。

総書記の深い関心の下で各水産事業所では、近代的な漁船と漁具を整えておき、科学的な漁労方法を導入して豊漁をもたらした。

水産業の発展に注いだ総書記の限りない献身と労苦は、朝鮮東海地区のある水産事業所にこもっている話を通じてもよく分かる。

この水産事業所は、「丹楓（タンプン）」号型漁船の故郷、黄金の海の歴史が創造された故郷である。ほかならぬここから「丹楓」号型漁船

が初の出港をして漁獲計画を超過遂行し、その時から水産部門では新たな集団的革新の炎が激しく燃え上がり、黄金の海の歴史が始まった。

このため、この水産事業所は、朝鮮労働党の水産政策を先頭に立って貫徹した水産革命の火種の事業所、「丹楓」号型漁船故郷事業所として、いつも金正恩総書記の心の中に強く刻み付けられているのである。

ある日、総書記はこの水産事業所支配人の手紙を受けた。

総書記が待っていた手紙、それは、豊漁をもたらした喜びを総書記に知らせる手紙であった。

4隻の漁船を事業所に贈った総書記は、2013年5月にこの事業所を訪れて、豊穣の秋のような海洋での大漁を期待するとして漁船の名を「丹楓（紅葉したカエデ）」と名づけた。

その日、総書記は魚を大量に捕獲して軍人たちに供給しよう、これは最高司令官の命令ではなくお願いだ、大漁の暁には支配人が手紙で喜ばしい便りを知らせてくれるようにと言った。

吉報に接した総書記は、2013年12月、寒風をついてこの水産事業所へ向かった。

この日、総書記は冷凍貯蔵庫にぎっしりと詰まった魚を見て、こんなに多い魚を見るとここを立ち去りたくないと言って幹部たちと共に魚を背景にして写真を撮った。そして、この水産事業所に来るとわれ知らず満足の笑いがこぼれる、漁港には大漁の汽笛の音、船倉には魚がいっぱいという歌のくだりが自然に頭に浮かんでくる、と喜びを隠し切れなかった。

2018年11月、再びここを訪れた総書記は、冷凍貯蔵庫ごとにたくさんの魚類が積み上げられていることに大きな満足を表し、漁労で新しい烽火を燃え上がらせた先覚者、モデルにふさわしく今後も黄金の海の歴史を開いていく航路をやむことなく前進するものとの期待と確信を表明し、彼らと共に記念写真を撮った。

2019年11月にもここを訪れた総書記は、水産事業所では引き続き水産革命の火の手を強く燃え上がらせなければならない、皆さんはいつもわが党の水産政策の絶対的な信奉者、堅実な擁護者、徹底した貫徹者にならなければならないと励ました。

ついで、水産事業所の革命事績教育室を見て回る際も、革命事績教育室を通じた教育を着実に行って、全ての漁労工と従業員が黄金の海の歴史の初のページを綴った誇り高い主人公らしく、より高い大漁の汽笛の音をもってわが党を擁護する先駆者、突撃隊の栄誉を変わることなく引き続き輝かせていくべきだと言った。

金正恩総書記の水産部門への献身の足跡は数え切れない。

2014年11月、ある水産事業所を訪れた際は、大漁旗をなびかせて埠頭に横付けになっている「丹楓2—04」号漁船のデッキに上がり、船倉にぎっしり積まれた魚類を見下ろしては、幹部たちに、なんと素晴らしい風景であろう、こんなに魚がたくさん積まれているのを見ると本当に気持ちがよい、食べなくても腹がふくれるようだ、と満足げに言った。

2015年5月、新浦（シンポ）遠洋水産連合企業所を訪れた金正恩総書記は、この企業所は金日成同志と金正日同志の指導の足跡が水産部門のどの単位よりも多くしるされている企業所であるだけに、黄金の海

の新しい歴史を創造するための闘いで先頭に立たなければならないと言った。

この日、総書記は自身が新浦遠洋水産連合企業所の名誉支配人になってこの企業所を真っ先にもり立てようとしているとし、黄金の海の新しい歴史を創造して全国に社会主義の海の香りが漂うようにしようというのがわが党の確固たる決意であり意志だと言った。そして、黄金の海の新しい歴史は座って望んでばかりいるとして自ずと創造されるのではなく、スローガンを唱えるからといって創造されるのでもない、党の指導に従って皆が奮い立って黄金の海の新しい歴史をわれわれの手で、われわれの技術で、われわれの力で創造すべきである、と強調した。

2018年11月、ある水産事業所を訪れた総書記は、「黄金海(ファングムヘ)―014」号漁船のデッキに上がって、大漁旗をひるがえして帰港した船長をはじめ漁労工たちの労をねぎらい、捕ってきたばかりの魚を陸揚げする作業や、野外荷おろし場に吐き出される魚の滝を見ると、実に気持ちがよい、この素晴らしい光景を背景にして写真を撮ろうと言って、漁労工と従業員たちを呼んで記念撮影を行った。

金正恩総書記は、水産部門の物質的・技術的土台を一層強固にすることを、水産業を最短期間内に飛躍的に発展させるための重要な問題と見なし、近代的な水産基地を新たに整えるための活動を賢明に導いた。

こうして、水産物の生産と漁労工たちの生活に必要な全ての条件と環境が最高のレベルで整えられた1月8日水産事業所が、水産事業所のモデル、手本として立ち上がった。

2014年4月、総書記は操業を前にした1月8日水産事業所を訪れて、次世代に譲り渡す今一つの財産がもたらされたと思うと本当にうれしい、今後水産熱風をより強く巻き起こして、社会主義の海の香りが全国の家々に漂うようにし、人民の食卓から社会主義の笑い声、労働党万歳の声が響き渡るようにしなければならない、と言った。

その後の2018年11月に再びここを訪れた総書記は、この水産事業所は自分が最高に重視している水産事業所であるとして、事業所の幹部や漁労工がこの誉れある任務を遂行する高い誇りと自負を持って全国の先頭を進み、新たな奇跡と革新を生んでいくものとの期待と確信を表明した。

金正恩総書記は、朝鮮で初めて塩辛を工業的方法で生産する金山浦（クムサンポ）塩辛加工工場と金山浦水産事業所を立派に建設して、人民の食生活の向上に寄与させることに格別の関心を払った。

2015年3月、現地に出向いた総書記は、全ての対象を遠い将来にも遜色のないものに建設するよう具体的な方途を示して必要な措置を講じ、塩辛加工工場と水産事業所の名称も命名した。

総書記は2017年1月にここを訪れて、金山浦塩辛加工工場と金山浦水産事業所が世界に誇りうるように立派に建設されたのだから、当該部門と塩辛加工工場、水産事業所の幹部や従業員は各自に任せられた本分を全うすることによって、人民の食生活向上に大いに寄与すべきだと言った。

2018年8月、再び工場を訪れた総書記は、金山浦塩辛加工工場はわが国の塩辛加工業を切り開いていく工場、草分けの道を歩む工場

であるだけに、企業戦略、経営戦略を正しく立てて塩辛品の味を改善し、品目を増やすための活動を力強く展開して、人民に実質的なおかげをこうむらせる工場にならなければならないと言った。

金正恩総書記は、水産部門で性能の高い近代的な漁船を多く建造するとともに、漁船を近代化するための活動を当面の課題としてとらえていくようにした。

こうして2015年、水産部門では朝鮮労働党創立70周年に際して数十隻の漁船が新たに建造され、漁獲と浅海養殖に必要な各種の漁具を生産する総合的な漁具工場が建てられて、各種の漁具を生産できる強固な土台が築かれた。

2016年7月、新たに建設された漁具総合工場を現地で指導した総書記は、漁獲や浅海養殖に切実に必要な各種の漁具を円滑に生産・供給するのは人民の食生活向上と直結した活動であるとし、漁具総合工場の幹部と従業員が黄金の海の歴史の創造に大いに寄与するよう力と勇気を与えた。

金正恩総書記は、養魚と養殖を発展させるための活動も精力的に導いた。

2015年5月、新昌（シンチャン）養魚場を視察した総書記は、この養魚場は金日成同志の直接の発起によって組織された、金正日同志も人民と人民軍軍人の食卓の上に味のよい魚料理を全部乗せてあげたいのが願いだとして献身と労苦を重ねてきたと感慨深く振り返った。

いつだったか金正日国防委員長は、遠い外国訪問の日々に宴会に出されたチョウザメ料理を見て、わが人民にチョウザメを食べさせる決心を固くし、この養魚場で他の魚と共にチョウザメも飼うよう

にした。そして、この養魚場を数回にわたって現地で指導し、数百回の教示を与えて、養魚の強固な土台を築くようにした。

金正恩総書記は、このことを感慨深く振り返り、金正日同志が国が厳しい試練に直面していた時期に莫大な資金を惜しみなく投じて、わが国の養魚場のモデルとして整えてくれたこの養魚場は、金正日同志の人民愛の結晶体、人民愛がもたらした労働党時代景であると述べた。

2019年4月、再びこの養魚場を訪れた総書記は、国の養魚科学技術を高い境地に引き上げる上で多くのことを成し遂げた、全国がこの養魚場の模範に見習ってわが党の養魚政策をあくまで貫徹して、人民に美味で栄養価の高い魚を多く供給するためにそれほど心を砕いた金正日同志の念願を必ず実現すべきであると語った。

2015年5月、あるサケ種魚場とサケ海面養魚事業所を現地で指導した総書記は、水産業を発展させるためには養魚と養殖に大きな力を入れなければならない、養魚と養殖の展望と未来は海に進出するところにあるとして、サケの養魚と魚類の加工でさらなる成果を収めるようにした。

総書記は、ナマズ養魚にも特別の関心を払い、平壌ナマズ工場、三泉（サムチョン）ナマズ工場など複数のナマズ工場を訪れて、工場の近代化とナマズ養魚の科学化をはじめナマズ生産を増やすための方向と方途を示した。

2015年10月、平壌ナマズ工場を現地で指導した総書記は、工場の近代化を遂げた成果を踏まえて生産を高いレベルで正常化し、より多くのナマズを生産して首都の市民に供給することによって、金正日

同志の恩情が首都の市民に行き届くようにすべきであるとねんごろに言った。

2018年8月に三泉ナマズ工場を現地で指導した総書記は、冷凍ナマズを見て、まるで金塊が積まれているかのようだ、本当に貴重な宝の工場だ、全工場が党の養魚政策を貫徹するという一念に燃えて奮励努力し、生産的高揚を起こすことにより、共和国創建70周年を誇らしい勤労の成果をもって迎えようと激励した。

金正恩総書記は、河川の多い国の自然地理的条件を利用して、囲い網養魚を大々的に行うよう導いた。

2015年11月、平壌市の大同江に新設された移動式囲い網養魚場を訪れた総書記は、わが国における囲い網養魚の実態と世界的な趨勢を深く把握し、外国でも囲い網養魚を行うと言うが、われわれは囲い網養魚を積極的に奨励し、大々的に繰り広げて魚を多く生産すべきである、そうして人民が実際にそのおかげをこうむるようにすべきであると言った。

総書記は、養魚を発展させる上で重要な飼料問題の解決にも深い関心を払い、魚粉飼料工場を立派に建設するようにし、2016年7月には、魚粉飼料工場を現地で指導しながら生産を高いレベルで正常化し、設備管理に力を入れる問題、魚粉飼料生産用の魚類の供給対策を徹底的に立てる問題、近代的な膨化飼料生産設備を新たに整えておく問題など、工場に提起される課題を示し、工場が今後、国の養魚を発展させる道で先駆者の旗を引き続き掲げていくようにと、力と勇気を与えた。

このように、金正恩総書記の賢明な指導の下に人民により裕福で

幸せな生活を享受させるための活動が力強く繰り広げられて、人民の生活向上の明るい展望が開かれるようになった。

燃え広がる軽工業発展の炎

金正恩総書記は、人民の生活向上で大きな役割を果たしている軽工業の発展に大きな力を入れるようにした。

総書記は、軽工業部門の工場の近代化、科学化水準を高めて国の軽工業を世界先進水準に引き上げるために軽工業部門の複数の工場を現地で指導し、既存の軽工業部門工場の設備と生産工程を近代的に改造し、将来を見通して先端水準の設備と生産工程を備えた近代的な一般消費財生産拠点を多く建設するよう指示した。

これとともに、消費財生産の科学化水準を絶えず高めなければならないとし、軽工業部門では工場、企業が現代軽工業の発展趨勢に沿って科学者、技術者を生産に積極的に引き入れて製品生産と品質向上、設備管理と経営活動で提起される全ての問題を科学的に分析し、科学技術の力によって解決していき、全ての軽工業部門工場、企業で科学技術陣をしっかり固めて新しい製品の開発能力を高め、集団的技術革新運動を活発に繰り広げるようにした。

特に、2013年3月の全国軽工業大会で行った歴史的な演説で、軽工業部門を農業部門と共に現段階において経済強国建設と人民の生活向上のための取り組みで力を集中すべき重要な部門と定め、既存の生産潜在力を最大限に残らず動員して一般消費財の生

産を画期的に増やし、近代化、科学化を力強く推し進めて、軽工業を世界の先進水準に引き上げることを軽工業部門で堅持していくべき中心的課題として提示した。

以前は大きくない地方産業工場にすぎなかった元山（ウォンサン）製靴工場も、金正恩総書記の重なる現地指導を受ける過程に近代的で能力の大きい履物生産拠点に変わった。

2014年7月、元山製靴工場を訪れた総書記は、軽工業部門工場の生産環境と生活環境を一新し、生産工程の近代化、科学化、情報化を高いレベルで実現すべきであるとし、元山製靴工場の設備をわれわれの方式で一つ一つ近代化する課題を示した。

そして、元山製靴工場に強力な建設陣を派遣し、設計と施工、資材供給など工事で提起される問題も直接解決してやった。

2015年1月、すっかり様変わりした元山製靴工場を再び訪れた総書記は、元山製靴工場は内も外も非の打ち所のない万点の工場であり、軽工業部門の標準工場、モデル工場であると重ねて評価した。

今日、元山製靴工場は全国に知られた工場、国の製靴工業を主導する総領工場となった。

金正恩総書記は、柳原（リュウォン）製靴工場の近代化にも深い関心を払った。

柳原製靴工場は、金正日国防委員長の直接の発意と賢明な指導によって1988年11月に設立された工場である。

2015年1月、総書記は柳原製靴工場を現地で指導しながら工場を近代化するための課題を示し、2017年10月、改築された工場を再び訪れては、工場の幹部と従業員が生産を正常化して工場に課

された人民経済計画を立派に遂行するものと確信していると大きな信頼を寄せた。

人民により裕福で文化的な生活条件を提供するために労苦を尽くし心血を注ぐ金正恩総書記の慈しみ深い愛は、軽工業部門工場のどこに行ってもありありと刻まれている。

金正恩総書記は、首都の市民にキムチを四季にわたって切らさず供給するためには、工業化がより高いレベルで実現された能力の大きいキムチ工場を建設すべきであるとし、自ら工場の名称を「柳京キムチ工場」と命名して、数回にわたって工場を現地で指導した。

2016年6月についで2017年1月にも再び工場を訪れた金正恩総書記は、日増しに高まっている人民の文化水準に合わせてキムチを美味く作るのは民族料理文化を発展させる上で極めて重要であるとし、民族伝統食品であり世界5大健康食品として有名になったキムチを世界一の食品として堂々と誇りうるように生産すべきであると強調した。

このように、金正恩総書記の賢明な指導の下に軽工業部門工場の近代化、科学化が力強く推し進められて、良質の一般消費財をより多く生産できる強固な土台が築かれるようになった。

金正恩総書記は、軽工業部門工場で製品の質を高めて、人民が好む名商品、名製品をより多く、より立派に作るための活動を力強く展開するようにした。

総書記は、人民が好まず求めない製品は百万個、千万個を作っても何の役にも立たないと強調し、軽工業部門工場、企業では消

費財の質を高めるための旋風を巻き起こして、人民の好評を得る必需品、自分の単位を象徴し、対外市場に出しても遜色のない名製品、名商品の生産に力を入れるようにした。

総書記は、平壌靴下工場を現地で指導した際には、自ら靴下を手にして左右に引っ張ってみながらその品質を確かめ、元山製靴工場を訪れては、人民の間でこの工場で生産された「メボンサン（鷹峰山）」ブランドの履物が人気を博しているのは、工場の履物の質が高いということを物語っているとして、今や誰もこの工場の履物を無視できなくなったと言って、満足の意を表した。

総書記は、2017年10月、新たに改築された平壌化粧品工場を訪れて、今後この工場で人民に好まれる良質の化粧品が量産されると工場を近代的に改築した甲斐があるだろうとし、平壌化粧品工場でわが人民の好みと特性、多様な趣味に合い、世界的に有名な化粧品と堂々と競争できる各種の化粧品をより多く生産して、わが国の化粧品工業をより高い段階へ引き上げるための課題を具体的に示した。

2018年6月、金正恩総書記が新義州（シンイジュ）化粧品工場と新義州紡織工場を現地で指導する時のことである。

金正恩総書記は、化粧品「ポムヒャンギ（春の香り）」をもって名声を上げている新義州化粧品工場を以前から一度訪ねてみようと思っていたが、最近、工場が優れた成果を上げたという報告を受け、今日時間を割いてやって来たと言った。

この日、総書記は商品の評価は質の良否によってなされはするが、商品がどれほど有名なのかということにも大きく左右さ

れるものだとし、商品の評価がそういう風になされるのは人々の一般的な心理である、だから、今後当工場製品の質を高め、包装を多様に行うだけでなく、同時に広告と宣伝にも力を入れれば、人々は外国の化粧品よりも当工場の化粧品に惹かれるだろうと語った。

今日、新義州化粧品工場は化粧品の品質を絶えず向上させ、人々の好みと年齢、体質の特性に合うように品目を増やして、国の化粧品工業を発展させる上で先駆的役割を果たしている。

総書記は、人民の生活に必要な織物の生産で長い歴史と伝統を持つ新義州紡織工場を訪れては、新世紀にふさわしい工場に一新する上での主要な目標は、工場を省力型の工場に作り変えることである、われわれは軽工業を振興させて、人民が幸せで豊かな物質・文化生活を心ゆくまで享受しうるようにしなければならないと強調し、この工場の寮を立派に建設するために、その敷地を定め、強力な建設陣を派遣する措置も講じた。

2022年に操業した大城山(テソンサン)アイスクリーム工場の建設も、人民の福祉増進のための活動は瞬時も遅らせることができず、人民のための創造物はいかなる条件でも必ず建てなければならないという総書記の確固不動の意志によって、国家的な重点対象として推進された。

総書記は、工場の建設を直接発意してその敷地を定め、非常防疫状況が長期化する中でも工事が円滑に推進されるよう特別措置を取り、生産設備と管理・運営問題に至るまで細やかな関心を払った。

金正恩総書記は、青少年学生の制服とかばんをはじめとする学用品の生産にも深い関心を払った。

2014年12月、金正淑（キムジョンスク）平壌紡織工場を訪れた総書記は、人絹織物職場から響く機械のうなりが気に入る、制服用布地の生産は党が最も重視する問題である、金日成同志は、われわれが児童・生徒・学生に制服を作って着せるのはわが子に衣服を作って着せるも同然なことだと述べている、と語った。そして、われわれは国の状況が困難であっても、金日成同志と金正日同志の崇高な志を体して児童・生徒・学生に無条件制服を作って支給しなければならない、児童・生徒・学生に制服を供給するのはわが党が一貫して堅持してきた政策であり、これは朝鮮式社会主義の優越性を内外に力強く示すことになる、この事業は金があればやり、金がなければやらなくても済む事業ではなく、どんな事があっても無条件なすべき事業であると言った。

この日、総書記は工場で学生かばん用布地の生産に必要な技術工程を整えるための活動も同時に推し進めなければならないと指示した。

2017年1月、総書記は新設された平壌かばん工場を訪れた際にも、工場が建設されて間もないが、もはやかばんのなだれ、かばんの豊作がもたらされたとし、われわれが建設した工場でわれわれの原料、資材をもってわれわれの手で作ったかばんを子供たちと人民に供給できるようになったのはなんと素晴らしいことだろう、別世界に来たような今日を忘れないであろう、と大いに喜んだ。

そして、われわれの力で子供の制服とノート、教科書はもちろん、良質のかばんまで生産して子供たちに供給するのは決して容易なことではないが、骨が折れても甲斐のある仕事をもう一つやり遂げてみると、胸がいっぱいになると非常に満足した。

金正恩総書記は、全国の幼稚園から大学に至る子供や生徒・学生に供給する良質のノートを専門に生産する近代的なノート生産拠点の建設を発起し、ノート生産工場の建設とノート生産に深い関心を払った。

ノート生産工場の形成案も検討し、その工場を「ミンドゥレ・ノート工場」と命名した総書記は、ノートの見本を見て、自ら字を書いてみながら紙の品質を確かめた。

2016年4月にはミンドゥレ・ノート工場を訪れて、工場の幹部と従業員はノート生産のためにささげた金日成同志と金正日同志の労苦をよく知り、母親が愛するわが子のために紙を綴じ合わせて帳面を作るような気持ちでノートの生産に邁進すべきであると語った。

金正恩総書記は、平壌幼児食品工場にも常に深い関心を払い、工場を近代化のモデル工場に立派に整備して、子供たちに栄養価の高い食品をより多く生産・供給するようはからった。

2014年12月、平壌幼児食品工場を訪れた総書記は、この工場を党と国家がよく援助すべきであるとして必要な措置を講じ、2015年11月に近代的に様変わりした工場を再び訪れては、子供たちに栄養価の高い食品を切らさず供給すれば、彼らの笑い声がより高く響くであろうし、人民は子供たちの幸せに満ちた笑い声から社

会主義の勝利を楽観できるようになるであろうとして、平壌幼児食品工場の幹部と従業員は幼児用食品をより多く生産・供給することによって、われわれの子供たちの笑顔を守らなければならないと言った。

最近、朝鮮では軽工業の持続的な発展のために各種の展示会が行われたが、これは国の軽工業発展を積極的に推進する意義深い契機となった。

特に、2022年10月に行われた「婦人服展示会—2022」は、婦人服の発展趨勢と近代的美感に合う服装を積極的に奨励・普及し、先進的な衣服デザインと加工技術を互いに共有し、交流して、国の縫製品工業を一層発展させる上で有意義な契機となり、2023年2月に行われた平壌市一般消費財展示会でも名製品、名商品を開発・生産する過程に得た成果と経験が交換された。

金正恩総書記は、全ての市・郡が自己の地方の実情に合わせて地方工業を発展させて、様々な良質の一般消費財をより多く生産するよう導いた。

総書記は、金日成主席が直に指導した歴史的な地方の党及び経済活動家昌城(チャンソン)連席会議50周年を迎える2012年が、地方工業の発展と人民生活の向上に画期的な転機をもたらす意義深い年になるようにした。

1962年8月、金日成主席は地方の党及び経済活動家昌城連席会議を招集し、郡の役割を強めて地方工業と農業をさらに発展させ、人民生活を向上させる上で提起される綱領的課題を示した。

金日成主席の志を体した金正日国防委員長は、昌城郡の経済

発展と人民の生活向上に常に深い関心を払い、2010年11月をはじめ数回にわたって昌城郡を現地で指導し、昌城郡が地方工業発展の炎を燃え上がらせる上で先駆的役割を果たすよう導いた。

2012年1月、金正恩総書記は昌城郡内の地方産業工場の近代化を推し進めて上半期内にモデルとして整え、その経験を全国に一般化させて国の地方工業を一段と発展させる課題を示し、数回にわたって昌城郡を一新させるための措置を講じた。そして、昌城郡で中央と地方の党及び経済部門責任幹部の参加の下に昌城連席会議50周年記念行事を盛大に行うようにした。

今日、昌城郡はさほど大きくない山間の郡ではあるが、その地方の特性に合わせて野生の果実を主とする果物の加工で朝鮮屈指の地方となっており、織物工場、製紙工場をはじめとする他の地方産業工場でも自らの原料源に基づいて生産を正常化している。

総書記は昌城郡の経験を全国に一般化させるための活動をねばり強く推し進めるようにした。

2012年8月、総書記は朝鮮労働党中央委員会責任幹部への談話『歴史的な昌城連席会議の精神を具現して、全ての郡を住みよい人民の楽園に築こう』において、全ての郡が自力で立ち上がり独り立ちできるようにする原則、自己の地方の実情に合わせて経済と文化を発展させ、全ての面で自己の郡の特色を正しく活かしていく原則、全ての活動を新世紀の要求に即して革新的に行い、絶えず新たな高い段階へ飛躍させる原則を堅持すべきであると強調した。

2013年6月には昌城郡の各部門の活動を現地で指導しながら、

郡の役割を強め、人民生活を向上させる上で提起される貴重な指針を示した。

昌城食品工場を訪れた総書記は、自身が昌城食品工場を重視するのは、ただこの工場一つだけをもり立てようとするのではなく、この工場をモデル、火種にして全国の市・郡にある地方産業工場が共に立ち上がるようにしようとするところに目的があると強調した。

地方経済を発展させて国の全ての地域を固有の特色を持つ発達した地域に変える遠大な構想を示した金正恩総書記は、金化郡でその基準を創造するよう導いた。

総書記は、党と国家の重要会議のたびに金化郡の地方産業工場の近代化を繰り上げて完了すべきであると強調し、必要な措置を優先的に取るようにした。

そうして、金化郡の機関所在地に地方工業の標準、モデル工場が立ち上がって生産を始めた。

金化郡に地方工業の近代化のモデルが創造されたのは、総書記の為民献身がもたらした結晶体であると同時に、朝鮮労働党の市・郡重視思想、市・郡強化路線の正当性と生命力の明確な誇示となった。

今日、金正恩総書記の精力的な指導によって朝鮮では、国の津々浦々で軽工業を世界的水準に引き上げるための活動が力強く繰り広げられて、人民の生活向上に大きく寄与している。

人民の幸せなすみか

昔から建築物には時代相が映ると言われている。建築ほど国の発展様相を直観的に、総合的に、雄弁的に示すものはない。

2013年12月、金正恩総書記は第1回建設部門活動家大講習会の参加者に送った書簡『党のチュチェの建築思想を具現して建設の大繁栄期を開いていこう』で、チュチェの社会主義建築は本質において人民大衆第一主義建築だとし、建築の創造者も人民大衆であり、その享受者も人民大衆であるから、建設では当然人民の志向と要求、便益が最優先視されなければならず、人民の情緒と美感に合わせて思想性・芸術性と実用性が完璧に保障されなければならないと指摘した。

金正恩総書記は、人民大衆第一主義の具現された記念碑的建造物を数多く建設するよう精力的に導いた。

金正恩総書記は、人民のための建築物を立ち上げるたびに、今後建物を利用する人民の立場に立って建設の全過程を精力的に指導した。

首都平壌に金正日国防委員長の遺訓通りに倉田通りを立派に建設するようにした総書記は、数回にわたって建設現場に赴き、高層住宅の最上階まで上がって施工はうまく行われているのか、ベランダの窓から隙間風の音はしないのか、エレベーターは適時に運営されているのかを調べ、階段を一つ一つ踏みながら下りる時には各世帯

のベルも押してみ、住宅に入っては天井から壁、床に至るまで隅々まで気を配った。

総書記が倉田通りの住宅を見て回るたびに幹部に常に強調したことは、人民の便益、人民の利益を全ての活動の基準にすべきだということであった。

金正恩総書記は、科学者、教育者に近代的な住宅を提供するために常に深い関心を払ってきた。

金日成総合大学教育者住宅の建設を自ら発意し、工事を最高のレベルで完成するように指導し、2013年10月には竣工式に出席して金日成総合大学の教育者たちを祝い、記念写真を撮った。

金正恩総書記は、金策（キムチェク）工業総合大学教育者住宅も最高のレベルで建設するようにした。

2014年5月、金策工業総合大学教育者住宅の建設現場を訪れた総書記は、住宅の建設には多くの資金がかかるが惜しまずに提供するつもりだとし、国の隆盛・繁栄のための事業と人材の育成に一生をささげている教員、研究士のためなら何も惜しくない、いくら資金が不足しても金策工業総合大学教育者住宅を最高の水準で建設すべきだと強調した。

金正恩総書記の献身と労苦は、首都平壌の大同江畔に建てられた未来科学者通りにも秘められている。

大同江畔の道路を軸とする住宅や各種サービス施設を建設して一つの市街を立ち上げようとの案を示した総書記は、2015年2月、専用機に乗って工事場を見下ろしながら建設状況をつぶさに確かめ、翌日には建設現場を訪れた。

長時間をかけて建設現場を見て回った総書記は、未来科学者通りの建設はわが国を近い将来に世界が羨む社会主義強国の高さに引き上げようとするわが党の戦略的構想を実現するための全党的、全国家的な事業であると強調し、われわれは未来科学者通りを最上級の市街として建設することで、わが党の科学重視思想を力強く誇示し、社会主義朝鮮の威力を世界に宣揚しなければならない、全党、全人民、全軍が総がかりで未来科学者通りの建設を党創立70周年以前に無条件完成しなければならないと指示した。

2015年10月、完工なった未来科学者通りを訪れた総書記は、高くそびえ立った未来科学者通りの全ての建築物には、人民を天のごとく尊ぶわが党の人民重視、人民愛の政治がそのまま凝縮されていると、重ねて満足の意を表した。

金正恩総書記は、黎明（リョミョン）通りもわずか1年という短期間に建設するよう精力的に導いた。

総書記は、黎明通りを省エネ型市街、グリーン市街のモデル、標準に立派に立ち上げる過程を通じて、人民のためなら千万金も惜しまない朝鮮労働党の気高い人民愛の生命力と、社会主義強国へ飛躍し前進しているチュチェ朝鮮の姿を今一度力強く誇示するようにした。

2016年3月、現地に足を運んだ総書記は市街の名称を「黎明通り」と命名し、黎明通りが建てられればわれわれの教育者、科学者、人民に開けた文化生活条件を提供する人民の市街がもう一つ生まれ、革命の首都平壌を文明の中心地にするのに大きく寄与するだろうと語った。

それから1年後の2017年4月、黎明通りは金日成主席の生誕105周年に際して竣工した。

この他にも、朝鮮労働党と共和国政府は首都市民の住宅問題を円滑に解決するためのスケールの大きい目標を掲げ、ねばり強く実行していった。

そうして、近代的な市街と住宅地区が随所に立ち上がり、数多くの市民に無料で新しい住宅が割り当てられた。

朝鮮労働党第8回大会では、2021年から始まった新たな国家経済発展5カ年計画期間に平壌市だけでも毎年1万世帯の住宅を建設することを決定し、建設の着工式が3月、寺洞区域松新・松花地区で行われた。

金正恩総書記は、平壌市1万世帯住宅建設の着工式で行った演説で、首都平壌に5万世帯の近代的な住宅を建設することは、首都市民により安定した文化的な生活条件を提供するために、わが党が大胆に構想し、準備してきた宿願事業であるとし、党はわれわれの建設者の熱烈な愛国心と才能を何よりも大いに信じていると述べた。

1万世帯の住宅建設は、5年前に黎明通りの建設を始める時とも完全に異なる状況で行われ、その上、その何倍もの作業量をやり遂げなければならない膨大な工事であった。

しかし総書記は、わが党は1万世帯住宅建設が首都市民の生活と直結している重大な活動なので無条件に推し進めることにしたと言った。

平壌市1万世帯住宅建設とは別途に普通門周辺の川岸地区に800世帯の段々式住宅区を建設することを発意した総書記は、党中央委員

会が直接掌握し完成して党と国家のために献身的に働いている各部門の労働革新者、功労者、科学者、教育者、文筆家をはじめとする勤労者に贈ろうとしているとし、この活動も積極的に推し進めた。

総書記は、完工を間近にした松新・松花地区1万世帯住宅建設場を訪れて、遠からずして人民が自分の手で竣工テープを切り、幸せなすみかに引越しする姿を見るようになった、自身の願いがまた一つ叶えられるようになったと大変喜び、太陽節(金日成主席の誕生日　4月15日)まで人民が新居入りできるように工事を完璧に仕上げようと言い、普通江川岸段々式住宅区の建設工事場を訪れては、800世帯の段々式住宅区建設は新たな形式の住宅で都市の様相を一新し、人民に優れた生活環境と条件を提供しようとする党中央の構想と意図が反映されている対象建設であると強調した。

こうして、2022年4月には平壌市5万世帯住宅建設の初の実体である松花通りと新たな形式の特色ある普通江川岸段々式住宅区が共和国の飛躍的な発展様相を誇示して建設され、竣工の日を迎えるようになった。

総書記は松花通りの竣工式でテープカットをし、新しい住宅の主人になった勤労者たちが幸福で文化的な生活を享受することを祈願し、長い間温かく手を振って祝福した。

普通江川岸段々式住宅区の竣工式に出席した総書記は、新しい住宅の主人たちを祝った。

金正恩総書記は、2022年2月に和盛(ファソン)地区1万世帯住宅建設の着工式を行って2023年4月までに竣工するよう導き、竣工式に出席してはテープカットを行い、勤労者たちを祝った。

2023年2月に和盛地区2段階建設の着工式と西浦（ソポ）地区の新しい通り建設の着工式が行われたが、金正恩総書記はそれらの着工式に出席して意義深い演説も行い、着工を告げる発破ボタンも押し、着工の鍬入れもしたりして建設者たちを鼓舞した。

金正恩総書記は、三池淵（サムジヨン）市と仲坪温室農場村をはじめとする地方の多くの市・郡と農村を労働党時代の文明が開花した現代的で住みよい山間都市、山間郡の典型に、社会主義農村文化住宅のモデルに一新するよう導いた。

総書記は数回にわたって三池淵市の各部門の活動を現地で指導しながら、三池淵市の建設を通じて現代文明が開花した山間都市の典型を創造し、その経験を一般化させて山間地帯の全ての郡の面貌を一新し、立派に整備しなければならないとし、この過程が地方建設での一大跳躍期、一つの革命となるようにすべきだと強調した。

こうして、三池淵市機関所在地は教育区画と住宅区画、商業サービス区画をはじめとする複数の区画に形成されて、全ての建築物の実用性と多様性、造形芸術化が完璧に実現された現代文明の縮図として立派に建設され、3段階建設を通じて市内の複数の地区と農場も山間文化都市のモデル、農村振興の標準に整えられた。

当時、三池淵郡の機関所在地をなしていた市街と住宅、公共建築区画は完全に姿を消し、数百ヘクタールの敷地に2～3階建て、多層住宅と公共及び産業建築が建設されて一つの新しい都市を形成するようになり、郡は市に昇格した。

三池淵市の転変は三池淵市の整備を発意し、昼夜を分かたず献身してきた金正恩総書記の偉大な指導がもたらした貴い結実である。

三池淵市を現代文明が開花した山間文化都市のモデルに一新し、党の地方建設構想を成功裏に実現できる跳躍台を築いた金正恩総書記は、党中央委員会第8期第6回総会において、農村住宅建設を2023年に遂行すべき第一義的な重要政策的課題の一つと定め、全ての市・郡で計画された農村住宅の建設を適時に完璧に結束することによって、地方が変わり、農村が興る時代を力強く開いていくようにした。

朝鮮労働党の気高い構想により、社会主義農村の面貌が日ごとに一新する中で、地域的・地帯的特性に合わせて建てられた農村建設計画に従って各地で文化住宅の建設が力強く推進され、至る所に新しい理想村が生まれ、楽しい新居入りの風景が広がるようになった。

国が住宅を建設して勤労者たちに無料で提供する共和国の施策は最近に至って実施されたものではないが、あれほど困難な条件と環境の下で建設された新しい住宅の主人がほかならぬ自分たちだということから、朝鮮人民はいつまでも感激を禁じえずにいるのである。

金正恩総書記は、父母のいない子供たちのために全国の育児院、愛育院を立派に建設するよう精力的に指導した。

総書記は、育児院と愛育院の子供の面倒を細やかに見なければならないとして、今われわれが平壌市をはじめとする全国の各道に育児院と愛育院を建設しているのは自慢したり宣伝したりしようというのではない、われわれが育児院と愛育院を建設するのは孤児たちを他にひけを取らず立派に育てるためだと言った。

2014年2月、平壌育児院と平壌愛育院を現地で指導した総書記

は、育児院と愛育院の生活環境と教育条件を根本的に改善するための決定的な対策を講じるべきだとし、重要建設が多くても育児院、愛育院を立派に建設しなければならないと言った。

2014年10月、完工なった平壌愛育院、育児院を訪れた総書記は、このような子供のための幸せなすみかはこの世にないだろう、父母のいない子供たちに一番素晴らしい家を与えることができたのだから、空の星でも取ってきたようにうれしいと言って満面に笑みを浮かべた。

このように至る所に立派に建てられた育児院と愛育院、初等学院と中等学院は、父母のいない子供たちの面倒を見ることを自身が必ずやらなければならない責任ある活動と見なし、限りない献身の労苦を尽くした金正恩総書記の賢明な指導がもたらした高貴な結晶体であった。

金正恩総書記の為民献身の足跡は養老院と労働者寮、少年団野営所などにも秘められている。

金正恩総書記が歩んだ人民愛の道はこれだけではない。

しかし、人々はその全部を知らずにいる。

総書記が国の至る所に新しい住宅をはじめとする人民の幸せなすみかをもたらすためにどれほど大きな思索と労苦を重ねてきたのかを……。

金正恩総書記の千万労苦によって建てられた新しい創造物を眺めながら、人民はただこみ上げる感激を抑え切れずにいるのである。

3. 文明強国の建設

金正恩総書記は文明強国建設路線を提示し、社会主義文明建設の一大全盛期を開いている。

朝鮮労働党の打ち出した社会主義文明建設は、社会主義文化が全面的に開花・発展し、人民に高い創造力と文化水準を備えさせ、最高の先進的な文明を創造・享受させることである。

総書記は教育と科学、保健医療、文学・芸術、スポーツをはじめとする文化建設の各分野でチュチェの人民観をしっかりと具現するようにした。

今日、朝鮮人民は、誰もが共に享受する文明、自立的土台に依拠した朝鮮式文明を謳歌しながら張り合いのある生活を営んでいる。

先進教育への転換

金正恩総書記は、わが国の教育を未来を安心して委ねられる最も優れた教育、理想的な教育に発展させて、全ての生徒・学生を真の革命的人材、有能な創造型の人材、社会主義後続部隊に育てることが新世紀の教育革命の基本目的であると強調した。

総書記は、常に国の教育発展に深い関心を払い、社会主義教育があくまでも人民大衆のための教育になるよう賢明に導いた。

国の文明水準はその社会で暮らしている人々の創造力と文化水準の高さによって決まり、人々の創造力と文化水準は体系的な教育を通じて高まるのである。

時代と歴史の発展と共に人間の創造力と文化水準の向上において教育の果たす役割は非常に強まっており、世界的にも教育事業に力を入れて国と民族の文明水準を高めるのが一つの趨勢となっている。

社会の発展において科学技術が決定的な役割を果たす知識経済時代、人材によって国力と経済・文化の発展が左右される人材重視の時代である今日の時代は、教育事業をさらに発展させることを求めている。

知識経済時代の中核が科学と技術であり、カギとなるのが人材であるなら、人材育成の基礎は教育である。

そのため、教育は科学技術の母と言われるのである。

金正恩総書記は、このような要求に即して教育事業を発展させて、朝鮮を教育の国、人材の国に築くことを文明建設の重要な課題として提示した。

総書記は2014年9月の第13回全国教育者大会の参加者に送った書簡『新世紀の教育革命を起こしてわが国を教育の国、人材強国に輝かそう』をはじめとする多くの著作と教示で、国の教育事業を発展させてわが国を教育の国、人材の国にする上で提起される課題と方法を示した。

時代の要求する新しいタイプの人材を立派に養成できるように教育システムを完備し、教育事業に対する指導・管理を改善することを新世紀の教育革命遂行で提起される重要な課題と見なした総書記は、全般的12年制義務教育制を実施し、校種を新たに整備することによって教育革命の最初の砲声を上げるよう導いた。

2012年9月、全般的12年制義務教育の実施に関する朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議法令が採択されることにより、全般的12年制義務教育の最初の主人公たちが祝福を受けながら登校する光景が繰り広げられた。

全般的12年制義務教育の実施は、全国に教育を重視し、教育事業を他の全ての事業に確固と優先させる社会的気風を立てる上で重要な契機となった。

2017年についで2018年も科学教育の年に定めた総書記は、2018年4月に行われた党中央委員会第7期第3回総会で科学・教育事業に革命的転換をもたらすという問題を独自の議題として討議し、それに関する決定を採択するように取りはからった。

総書記は総会で、わが党は社会主義教育制度の優越性を遺憾なく発揮するために全力を尽くすつもりであるとし、われわれの次世代を最も立派な制度と条件で最高の教育を受ける優れた人材に育てるというのがわが党の確固不動の決心であると強調した。

これを受けて党中央委員会第7期第3回総会で採択された決定書には、教育事業への国家的投資を増やし、全社会的に教育重視気風をさらに強く確立することが重要な問題として反映された。

朝鮮労働党の教育重視、人材重視の政策を貫徹するための活動が力強く繰り広げられる中、2019年9月、第14回全国教員大会が平壌で行われた。

大会では、総書記の古典的著作『教員は党の教育革命方針貫徹で職業的革命家の本分を果たすべきである』が大会の参加者に伝達された。

総書記は著作で、全国の人民と教員の大きな関心と期待の中で第14回全国教員大会がかつてない規模で開かれたとし、わが党は今回の教員大会を極めて重視しており、われわれが全国教員大会を開こうとしたのは、全ての教員を党の教育革命方針の貫徹へ力強く奮い立たせて国の全般的教育水準を高め、社会主義教育強国、人材強国の建設をより速く推し進めるところにその目的があると指摘した。

そして、全ての教員と教育活動家が朝鮮式教育革命の直接の担当者という強い自覚を持ち、次世代の教育事業に知恵と情熱を尽くすことで、人材教育戦線の先兵、職業的革命家としての責任と本分を果たすべきだと強調した。

大会の参加者と共に記念写真を撮る際にも、教員はわが祖国の明るい未来を育む共産主義者であり、真の愛国者、職業的革命家であるとし、かつてない規模で行われた今回の大会が教育事業において根本的な大革命を起こす重要な契機にしようとする党の意図をよく知り、教育事業に転換をもたらさなければならないと強調した。

教育者を押し立て、教育事業を最優先させる金正恩総書記の崇高な品格は、各教育機関に対する現地指導の足跡にもこもっている。

2012年の旧正月に万景台(マンギョンデ)革命学院を訪ねることから始まった総書記の教育部門に対する現地指導は、その後、首都平壌の倉田小学校をはじめとする普通教育部門の学校や平壌建築大学と平壌教員大学をはじめとする高等教育部門の大学へと絶えることなく続いた。

2012年5月、総書記が倉田通りに新設された倉田小学校と慶上(キョンサン)託児所、慶上幼稚園を訪ねた時のことである。

倉田小学校の教室を見て回った総書記は、冬季や雨季に子供たちが濡れた防寒服やレインコートを掛けるハンガー付き長椅子を廊下に設けるとよい、私が家具をよく作る単位に任務を与える、と言った。

慶上託児所で食事室の床に手を触れて温度加減を確かめた総書記は、幼児たちを温かいオンドル部屋で食事させるようにと強調し、幼児たちの靴箱も開けてみ、寝室の寝具類にも気を配り、また、水遊び場が子供たちの童心と身体的条件を十分に考慮して立派に作られているとして満足の意を表した。

続けて慶上幼稚園を視察し、運動場と室内の各所を見て歩いた

後、園児たちが公演を用意したと聞いて、いくら忙しくても観ることにしようと言い、公演が終わった後には子供たちを抱き寄せて記念写真も撮った。

平壌教員大学も金正恩総書記の大きな関心の中で教育の科学化、情報化、近代化が立派に実現した教育者養成拠点として全国に広く知られるようになった。

この大学は小学校の教員と幼稚園の教養員を養成している。朝鮮では、幼稚園及び小学校年齢の子供たちを教育する事業が極めて責任ある事業となっており、それゆえこの部門の教員の能力向上を次世代の将来、ひいては国家の将来とも関連する問題として重要視している。

初等教育部門に対する整然とした学術一元化体系が確立された平壌教員大学は、全国の教員大学を網羅する学術研究及び普及の中心単位とも言える。着想が独特で実効の高い大学の新しい授業法は、各道・市の教員大学に広く普及されている。

平壌教員大学が新時代の要求に即して立派に改築され、教授内容と方法の科学化、情報化、近代化が実現されることによって、朝鮮では学齢前児童教育と小学校教育を新しい科学的土台の上に確固と引き上げることができるようになった。

2018年1月、改築なった平壌教員大学を視察した総書記は、わが党は教員大学を非常に重視している、私は教員大学で養成された教養員や教員が次世代教育の強い根になり、肥やしになることを期待している、教員大学の学生や卒業生はこの点を肝に銘じるべきだ、と強調した。

そして、学生たちを一等級高い段階の授業を受け持って遂行しうる教養員、教員に準備させることは教員大学がモットーとして取り組むべき目標である、師範教育部門はこれを重要な政策的課題としてとらえ、第一の力を注ぐべきだ、と強調した。

2013年11月、平壌建築大学を視察した総書記は、大学の教職員・学生が創作した数十件の建築形成設計を指導し、大学の教授活動を世界的レベルに引き上げるための措置を講じ、自身が大学の名誉総長になって大学の活動を積極的に後押しするつもりだと語った。

金正恩総書記は、教育と関連する活動では満足というものはありえないとし、機会あるたびに全社会的に教育部門を積極的に援助することについて強調した。

2017年9月、総書記は島の分校と最前線地帯、山奥の村の学校に志願した教員を首都平壌に招き、彼らの善行を高く評価し、彼らと共に記念写真を撮った。

金正恩総書記は、金日成総合大学と金策工業総合大学の教員、研究士をはじめとする教育者に贈る近代的な住宅の建設を直接発起し、建設現場をたびたび訪ねて細心の指導を行い、落成を宣布する日には自ら現地へ出向いて入居する教育者を祝い、彼らと共に記念写真を撮った。

これら全ての事実には、教育事業を重視する金正恩総書記の思慮深い恩情がこもっている。

金正恩総書記は、人民と青少年・学生に立派な教育条件と環境を提供するために教育機関の様相を一新し、特に教育設備と実験・

実習器具を完備することに大きな関心を払うよう導いた。

いつか幹部たちに、人材の養成を木の生育にたとえるなら、教育は土壌であり、教育条件と環境は堆肥であると言ってその重要性を強調した総書記は、中央と地方の教育水準の格差も結局は教育条件と環境の相違によって生じるとし、教育条件と環境を改善するための活動を力強く推し進めるようにした。

特に、近代的な教育施設をより多く、より立派に建設することを国の教育事業発展のための重大な問題と見なした総書記は、この活動に国家的投資を増やすよう措置を講じた。

そうして、全ての教育機関の教室と実験・実習室の多機能化・情報化が急速に推進され、松涛園（ソン ドウォン）国際少年団野営所をはじめ全国の少年団野営所と学生少年宮殿が児童・生徒の学習と課外活動の総合的拠点として立派に改築され、慶上幼稚園と平壌育児院、平壌愛育院が保育・教育と学齢前教育のモデルとして立派に整備された。

特に、2015年11月には万景台学生少年宮殿が立派に改築され、朝鮮労働党の次世代教育重視思想の生命力を全世界に力強く誇示した。

2015年11月、改築なった万景台学生少年宮殿を訪れた総書記は、この宮殿は国の頼もしい担い手、後続部隊を育てる次世代教育の殿堂であり、わが党の次世代教育政策の正当性とわが国の社会主義制度の威力と優越性を全世界に力強く誇示する記念碑的建築物であると述べた。

この日、総書記は、宮殿のサークル活動に必要なことは何でも要求すべきだとし、われわれは子供たちのためなら何ものも惜しんで

はならず、彼らの明るい笑顔を守らなければならない、われわれが今のような困難な時期に強く守り抜いた子供たちの笑い声は、遠い将来に社会主義勝利の歌声となって高らかに鳴り響くだろうと力を込めて語った。

万景台学生少年宮殿では、児童・生徒が放課後、各自の趣味と素質に応じたサークル活動に参加してより多くの知識を学び、才能を磨いており、その実力は今日も全国で指折りの高い水準に達している。

宮殿の腕前展覧室に展示された国際的な美術展示会及び展覧会で高い評価を受けた美術作品がそれを断片的に実証している。

体育サークルの卒業生の中には器械体操種目で3重世界選手権を保有した李世光（リセグァン）のような優れたスポーツマンが多数輩出した。

万景台学生少年宮殿が近代的に改築されたときからサークル活動に参加する生徒の数は日を追って増えており、サークル活動を修了した生徒は当該部門の優れた専門家に育っている。

2019年5月、朝鮮の北辺慈江（チャガン）道江界（カンゲ）市に位置する「学びの千里の道」学生少年宮殿を訪ねた総書記は、少年宮殿の改築と運営の状況をつぶさに確かめ、少年宮殿をより近代的かつ総合的な課外教育拠点として整備するよう指示した。

朝鮮に確立された全社会的な教育重視の気風と国家的な関心は大きな実効を現している。

2018年に行われた第27回世界記憶力選手権大会で、朝鮮の大学生たちは7個の金メダルと4個のカップを獲得し、2人は国際記憶大家賞を受賞し、2019年に行われた第28回世界記憶力選手権大会でも6

人の選手が11個の金メダルをはじめ28個のメダルを獲得して国別総合順位で断然優勝し、18件の世界記録を突破し、4件の世界新記録を樹立し、6人全員が国際記憶大家賞を受賞した。

朝鮮の子供たちは、2018年10月に行われた第15回国際祭典「モスクワは友人を歓迎する」ではオウン琴3重奏で、翌年の第16回国際祭典ではオウン琴4重奏で嵐のような反響を呼び起こし、一生徒は2019年3月にロシアで行われた第3回クライネフ名称モスクワ国際ピアノコンクールで賞状を授かるなど、大きな成果を成し遂げた。

全人民科学技術人材化のために

金正恩総書記は、社会主義強国建設において科学技術の占める地位と重要性、その飛躍的発展のための課題と方法を明示し、全社会的な科学技術重視気風を確立し全人民科学技術人材化を実現するための活動を精力的に導いた。

科学技術の力によって全ての部門を速やかに発展させ、人民の楽園を打ち建てること、これは金正恩総書記が堅持し、具現してきた重要な創造方式、創造的気概である。

新たなチュチェ100年代の初期、一心団結と不敗の軍事力に新世紀の産業革命をプラスすれば、それがすなわち社会主義強国であるという有名な命題を提示した総書記は、科学技術の発展を党と国家の一貫した重大政策として打ち出した。

総書記が朝鮮労働党中央委員会第7期第3回総会で提示した「科学に

よって飛躍し、教育によって未来を裏付けよう！」という戦略的スローガンには、科学技術が社会主義経済発展において主な牽引力としての役割を果たすべきだという気高い意図が盛り込まれている。

全社会的に科学技術重視の気風を確立し、全人民科学技術人材化のスローガンを高く掲げて全ての勤労者が現代科学技術を熱心に習得して社会主義強国建設に大いに寄与するようにしようというのは総書記の確固たる決意であり、意志である。

金正恩総書記は、科学技術の主人、科学技術発展の担当者である広範な大衆が科学技術発展に積極的に参加することに優先的な力を入れた。

総書記は数回にわたって、科学技術重視の気風を全社会に確立して誰もが科学技術の主人、科学技術発展の担当者になる問題、誰もが科学技術を重視し優先させることを自分の家事のように見なす問題、社会的に科学者、技術者を押し立て、優遇し、科学技術部門に対する支援活動を活発に行う問題について具体的な助言を行った。

総書記は、2013年11月に開かれた全国科学者・技術者大会の参加者に送った書簡『科学技術の発展に転換をもたらして強盛国家の建設を力強く推し進めよう』で、金日成主席と金正日国防委員長の業績をとわに輝かせ、経済建設と人民の生活向上で提起される科学技術上の問題を解決し、国の科学技術発展に新たな転換をもたらすための方向と方法を明示した。

大会の参加者と共に記念写真を撮る際には、全国の科学者・技術者大会は国の科学技術を飛躍的に発展させて国を知識経済強国につ

くり上げる上で重要な契機となるとし、科学者、技術者への期待と確信を表明した。

2018年1月に行われた金正恩総書記の国家科学院に対する現地指導は、極めて大きな意義を持っている。

新年初の現地指導対象として国家科学院を訪れた総書記は、科学者、技術者たちは自らの使命と任務をはっきりと自覚して、人民経済の自立性と主体性を強化し、人民の生活を改善し向上させる上で意義の大きい科学技術上の問題を解決するための創造と探究にこぞって取り組むべきであると指摘した。

総書記の国家科学院への現地指導は、科学技術の威力によって社会主義強国建設を推し進めようとする朝鮮労働党の確固たる決意と意志を示した現地指導であった。

総書記は2019年4月、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第14期第1回会議で行った施政演説においても、科学技術重視の気風を確固たる国風とならしめることについて特に強調した。

そうして、全国に科学を重視する気風が確立し、広範な大衆は国の科学技術発展に大いに寄与することができるようになった。

全人民科学技術人材化の実現に深い関心を払ってきた金正恩総書記は、全人民が高等教育を受けられるより立派な教育システムを確立するための活動を賢明に導いた。

朝鮮では久しい前から金日成主席と金正日国防委員長の賢明な指導によって、働きながら学ぶ高等教育システムが整然と確立している。

これに基づき、総書記は工場大学、農場大学、漁場大学をはじめ

とする働きながら学ぶ大学を増やし、その教育水準を高めるよう指導した。

特に、幹部と勤労者が各自の希望と能力に応じて働きながら思う存分学べるように遠隔教育システムをより充実させ、科学技術普及活動を活発に行って、全人民科学技術人材化のスローガンを示したわが党の政策の正当性と生命力を誇示するようにした。

金策工業総合大学の遠隔教育学部で初の遠隔講義が始まった時から勤労者たちの遠隔教育に対する熱意は日増しに高まっており、その実効性が如実に現れている。

総書記は人民経済の各部門の工場や企業を視察するたびに、科学技術普及室の運営と遠隔教育の状況を具体的に確かめ、その運営を着実に行って全ての勤労者を実践型の人材に育て上げ、彼らが科学技術上の問題を解決する上で創造的能力と知恵を遺憾なく発揮するよう導いた。

2013年6月、平壌基礎食品工場を訪ねた総書記は、工場で科学技術普及施設を立派に整えたと称え、科学技術普及施設に電子図書室と科学技術図書室、遠隔講義室を設けているのはよいことだと述べた。

そして幹部たちに、全人民武装化という言葉があるが、遠隔講義室で遠隔教育を受けるのを全人民学習システムと言うべきだとし、社会の全構成員を大卒程度の知識を身につけた知識型勤労者にする上で遠隔教育は重要な役割を果たすと強調した。

2015年6月、平壌市寺洞区域将泉野菜農場を現地で指導した際には、科学技術普及室で平壌農業大学の遠隔教育を受けられるようになっていることを知り、科学技術普及室の運営を着実に行うことが

重要だと強調し、農場員たちに先進科学技術を教えて彼らを野菜博士、農業博士に育てるべきだと述べた。

翌年の6月、金正淑平壌製糸工場を訪ねて工場の技術人材育成の状況を確かめた総書記は、工場で技術人材育成活動に力を入れているのが気に入る、従業員の間に学習気風も確立している、工場で従業員を科学技術で武装させるための活動を力強く展開した結果、多くの成果を成し遂げている、と高く評価した。

総書記は2017年5月、楽浪(ランラン)戦傷栄誉軍人樹脂日用品工場を訪れた際にも、科学技術普及室を立派に整えていることに満足を表し、その運営において提起される課題を具体的に示した。

このように、金正恩総書記の賢明な指導の下に多くの単位では全人民科学技術人材化を実現しうる確固たる土台が築かれた。

科学者、技術者により立派な活動条件と生活条件を提供しようとする金正恩総書記の指導の跡は延豊(ヨンプン)科学者休養所にも歴々と残っている。

2013年の夏、総書記は科学者休養所の敷地を定めるために2度も延豊湖に赴き、自ら船に乗って湖の周辺を見て回り、休養所の適地を内定した。

それから数カ月後の2014年1月、国家科学院の現地指導を終えた総書記はその足で、科学者用休養所の敷地を確定すべく、再び現地に向かった。

総書記は、延豊湖は金日成同志と金正日同志の指導業績が秘められている所だ、科学者たちの休養所の敷地としてはうってつけの場所だ、と大いに満足した。

そして、科学者たちに十分に休息できる条件を提供するなら、彼らは科学研究活動でさらなる成果を収めるはずだ、それで党は金日成同志と金正日同志の指導業績がこもっており、景色のよい延豊湖畔にこの世にまたとない最上クラスの科学者休養所を建設することにした、われわれは科学者のためのものは全て最高のレベルで提供しなければならないと改めて強調した。

その後、数回も現地に出向いて建設で提起される問題を優先的に解決し、2014年10月には完工なった延豊科学者休養所を訪ね、この科学者休養所は党がわが国の科学者に贈る「金の座布団」であるとし、彼らがここで十分に休息しながら疲労をすっかり癒し、社会主義万福を思う存分享受できるようにさせようと述べた。

総書記の絶え間ない指導の足跡はこの延豊科学者休養所にのみしるされているのではない。

総書記の指導があってこそ、銀河（ウンハ）科学者通りや未来科学者通りをはじめとする科学者、技術者のための労働党時代の記念碑的建築物が至る所に建設されたのである。

金正恩総書記は、科学技術殿堂を党の科学重視思想が凝縮された創造物、国の科学技術普及及び教育拠点として建設し、国の科学技術の発展と全人民科学技術人材化の実現に大いに寄与するよう賢明に導いた。

2014年6月、スク島に出向いた総書記は、自身は金日成同志の指導業績のこもっているスク島に全国の人民に科学技術を普及する拠点を築く決心をしたとし、国の興亡は科学技術の発展にかかってい

るから、スク島を科学の島につくり変えようと切々と語った。

2015年2月、再び科学技術殿堂建設現場に赴いた総書記は、今党創立70周年を迎えて多くの対象を建設しているが、そのうち最も重要な対象は科学技術殿堂である、科学技術を発展させることは社会主義強国建設の勝敗を左右する重大事であり、国の前途に関わる極めて重要な事業である、私が機会あるたびに強調していることだが、科学技術の威力によって社会主義強国建設を推し進めるのはわが党の確固たる決意である、科学技術殿堂は私が決心して建設する対象であると述べた。

2015年10月にも竣工を控えている科学技術殿堂を訪れ、科学技術殿堂は人民大学習堂のように全国の人民が科学技術を思う存分学ぶことのできる全人民学習の大殿堂であるとし、科学技術殿堂の主人は人民であると再三強調した。

2016年1月、科学技術殿堂の落成式に出席した総書記は、これがまさに党の構想が具現された全人民学習の大殿堂、最新科学技術普及拠点であると述べ、朝鮮労働党第7回大会を迎える新年の最初の大門を科学をもって開いたと言ってたいそう満足した。

総書記の深い関心の中で全人民学習の大殿堂であり、多機能化された科学技術普及のセンターである科学技術殿堂を拠点に全国的な普及網が形成されて、新しい科学技術資料が中央から地方の末端に至るまで普及されるようになった。

今日、科学技術殿堂は最新科学技術普及の強力な拠点、人類が達成した科学技術の成果資料をデジタル化して保存・管理する総合的なデータ構築拠点、様々な資料をネットを通じて随時に閲覧でき、

情報共有、情報交流も行える多機能化された科学技術サービス施設としての使命を遂行している。

竣工されてからこれまで数億件の最新技術、情報資料がここから全国各地へ伝達・普及され、それは国の科学技術の発展と経済建設の成果につながっている。

今、科学技術の発展は朝鮮で極めて重要な問題となっており、科学技術の発展に対する社会的関心は一層高まっている。

総書記は、2022年12月に行われた党中央委員会第8期第6回総会で、国の科学技術水準を高い段階に引き上げるべき緊切さを今一度強調し、科学技術重視、科学技術先行の原則を堅持することを重要な問題として言及した。

今日、朝鮮ではどこでも科学技術という言葉が時代語のように盛んに使用されており、どの部門や単位でも原料と資材、資金の問題が論議される前に科学技術の問題が話題に上っている。

このような時代の流れは、人々に科学技術人材という言葉の真の意味を改めて認識させている。

科学技術事業は決して、特定の人々によってなされるのではないということである。

「誰もが科学技術人材になれ！」

朝鮮ではこれを時代の呼び掛けである前に、自分の当然の本分とし、より多くの知識と技術を身につけるために全ての人が一生懸命学んでいる。

科学がなければ未来もないという揺るぎない意志、科学技術の威力をもって社会主義強国建設を力強く推し進める確固たる決意を抱き、科学重視、人材重視の崇高な経綸を実現していく総書記の指導

によって、科学重視の熱風が全国に巻き起こった。

このように、金正恩総書記の賢明な指導の下で国の科学技術水準を一段と高く引き上げるための活動が力強く繰り広げられ、科学技術発展の主人、担当者としての人民大衆の役割を不断に強めるための活動には新しい転換がもたらされるようになった。

人民の健康増進のために

人民の健康増進と生命・安全に常に深い関心を払っている朝鮮では、人民保健医療事業の改善を人民大衆中心の朝鮮式社会主義の優越性を高く発揚させ、国家的に最優先的な力を入れるべき重大事と見なしている。

無病長寿は人類が長い歳月持ち続けた願いであった。医科学技術が日を追って発展し、医療サービスも絶え間なく改善されている今日、人類のこの志向と要求はなおさら高まっている。

朝鮮の保健医療制度の重要な特徴の一つは、人々が病気にかからないように予防対策を立てるということである。

中央と各道に衛生宣伝機関が設けられ、保健医療部門だけでなく各部門の機関にまで衛生宣伝システムが確立されている。

全国的規模で衛生防疫活動が全面的かつ計画的に推進される過程で、都市と農村で住民の生活及び労働環境が文化的、衛生的に整えられ、伝染病による脅威が根源的に取り除かれている。

朝鮮ではまた、全ての人が生まれてから一生の間担当医の「視

野」の中で生活している。

全ての人にそれぞれ担当医が付いているので、疾病を予防し、健康を保護・増進させることができる。

朝鮮で医師区域担当制は医師が一定の区域の住民世帯を担当し、それぞれの担当区域に日常的に出向いて住民の健康状態と衛生状態を点検し、科学的な予防医療活動を行う制度で、疾病を予防し、一旦病気にかかれば適時に治療して重い病気にならないようにする。

こうした医師区域担当制は第1次7カ年計画(1961年～1967年)期間に実施された。その後、中央から各道・市・郡・里に至るまで整然とした医療サービス網が構築され、医療従事者の数が引き続き増えるにつれて医師区域担当制はさらに深化・発展した。

また、生産単位では医師が工場、企業の職場を担当する形態で医師区域担当制が実施されている。

朝鮮では毎年、流行病を予防するため全住民に予防接種も行っている。

最近、朝鮮の保健医療部門で成し遂げられた重要な成果の一つは、遠隔医療サービスシステムを確立したことである。

朝鮮ではこのシステムの開発と導入を国家的な政策とし、その実現を積極的に推し進めて、2009年から2012年までの期間に4の中央級病院と10の道(市)病院、190余の市・郡病院と10の道産院などに遠隔医療サービスシステムを確立した。

このサービスシステムは引き続き拡大され、全国の道・市・郡病院、そして里病院にも展開された。

その結果、地方の医療機関では患者の診断などで問題点が生じ

ると中央病院に遠隔医療サービスを要請して疾病の診断と治療を正確に行っており、山間部の郡病院でも中央病院の貫禄ある医師の助言を得て、以前には考えも及ばなかった難しい手術にも成功している。

遠隔医療サービスシステムを通じた地方病院の医療従事者に対する技術講義が定期的に行われ、その過程で医師の技術水準が日を追って高まり、各種の慢性疾病の患者に対する治療活動は大いに改善されている。

2013年、首都平壌では遠隔医療サービスに関する世界保健機関東南アジア地域技術協議会が行われ、朝鮮民主主義人民共和国保健省に世界保健機関東南アジア地域事務所保健医療部門優秀賞が授与された。

金正恩総書記は、党の予防医療方針をあくまで具現し、医師区域担当制を一層強化し、医療サービスの科学化・情報化を積極的に推し進めて、人民が社会主義保健医療制度の恩恵の中で無病長寿を保つよう導いた。

総書記は、人民保健医療事業は人民の健康と生命を守り、増進させるための事業であるとし、人民保健医療事業を絶えず発展させてこそ、人民にこの世で最も優れたわれわれの社会主義保健医療制度の恩恵を思う存分享受させることができると強調した。

2018年1月、平壌製薬工場を訪れては、われわれは千万金を投じても社会主義保健医療事業、人民の健康を増進・保護する活動を改善しなければならない、これは単に保健医療部門にのみ課された政策的課題ではなく、われわれの革命の要請であると語った。

金正恩総書記は保健医療施設を立派に建設するための活動を力強

く繰り広げるように細心の指導を行った。

総書記は、平壌産院乳腺腫瘍研究所を有意義に建設すべきだ、平壌産院乳腺腫瘍研究所の建設は金正日同志の遺訓を貫徹するための活動であり、わが国の女性たちに対する党の恩恵であると語った。

そして、数回にわたって建設を現地で指導し、建設が高い質的水準で進められるように深い関心を払うとともに、先端医療設備を整える取り組みも同時に推し進めるように指導した。

2012年11月、新築なった平壌産院乳腺腫瘍研究所を再び訪れた総書記は、このように現地で見ると実に素晴らしい、中央ホールに入るとまるで宮殿に来ているような気がする、乳腺腫瘍研究所は研究所と言うよりも宮殿と言うべきだと喜びを禁じえなかった。

総書記は、子供たちのための総合的かつ専門的な医療サービス拠点である玉流（オンリュ）児童病院の建設にも大きな労苦と心血を注いだ。

児童病院の建設が進んでいた2013年7月、建設現場を訪れた総書記は、われわれは児童病院を子供たちの病気を治療する単なる病院と見なしてはならない、児童病院は病院である前に金正日同志の人民保健医療思想を擁護し、輝かせ、わが国の社会主義保健医療制度の優越性を示す場とならなければならない、と語った。

2013年10月、完工を間近にした児童病院の建設現場を再び訪れては、自身は党創立記念日を迎えて完工することになっている建設対象の中で児童病院の建設を重視し、ここに深い関心を払ってきたと述べ、児童病院を「玉流児童病院」と命名した。

人民の健康増進において歯科病院の占める位置と重要性を深く洞察した総書記は、平壌市の中心部に近代的な児童病院と歯科病院を

建設するための貴重な助言を行い、自ら敷地まで定めるなど、建設上必要な対策をもれなく講じた。

2014年3月、開院した柳京歯科病院を訪れて医療サービスの実態と病院の管理・運営状況をつぶさに確かめた総書記は、柳京歯科病院は人々の健康の増進に積極的に寄与しなければならない、この病院は朝鮮労働党が人民のために建てたのだから、宣伝用、広告用の病院になってはならない、柳京歯科病院は見学用の病院ではなく、実質的に治療を行う病院、人民に奉仕し、わが国の社会主義保健医療制度の優越性を誇示する病院にならなければならないと強調した。

総書記は、柳京眼科総合病院の建設にも深い関心を払い、建設の全過程を賢明に導いた。

まず、紋繡（ムンス）地区に柳京眼科総合病院を建設するようにし、数回にわたって病院の位置と規模、形成案に対して細心の指導を行った。

2016年5月、柳京眼科総合病院の建設現場を訪れた総書記は、柳京眼科総合病院は眼病を治療する医療機能と共に眼鏡の製作と矯正をはじめとする各種のサービス機能を備えた総合的かつ多機能的な医療サービス拠点である、近代的な眼科総合病院を建設して人民に贈るのは、私が以前から構想してきたし、必ずやり遂げたいと思ったことである、それで柳京歯科病院を建設した後、柳京眼科総合病院を建設するようにしたと語った。

同年10月、新築なった柳京眼科総合病院を訪れた総書記は、柳京眼科総合病院は人民が実際にそのおかげをこうむることができる人民の病院である、人民の喜ぶ姿を思い浮かべてみると本当にうれしい、この病院は人民に必ず必要な病院である、と語った。

この日、総書記は、われわれが柳京眼科総合病院のような多機能化された病院を優先視し、近代的に建設したのは、決して国の状況がよかったからではない、柳京眼科総合病院を建設したのは、人民の生命と健康を党と国家が全的に責任を持って見守るわが国の社会主義保健医療制度の優越性とわが党の人民的保健医療政策の正当性を力強く誇示したことになると語った。

金正恩総書記は医薬品と医療機器、医療施設をより多く、より立派に生産するための活動に転換をもたらすよう賢明に指導した。

2014年11月、精誠（チョンソン）製薬総合工場を訪れた総書記は、社会主義制度の優越性を言葉や文章ではなく、社会主義保健医療制度のような社会的恩恵を通じて肌で感じるようにすべきだとし、さまざまな薬品を量産して人民に供給し、医薬品の効能を一層高めるための取り組みを強化するようにし、2016年9月には大同江注射器工場を訪れて人民の利用する注射器をより多く、より立派に生産するようあらゆる措置を取った。

そして、2017年6月には平壌歯科衛生用品工場を、2018年1月には平壌製薬工場を視察しながら、上質の歯科衛生用品をより多く生産し、製薬工業部門を先進国の水準に引き上げることを目標として奮起し、生産を正常化して人民が実際にそのおかげをこうむるようにすべきだと強調した。

このように、金正恩総書記は保健医療部門で党の予防医療方針を貫徹するための活動を力強く展開し、人民重視の社会主義保健医療制度をさらに発展させることによって、人民が健康な体で社会主義建設に積極的に参加できるようにした。

文学・芸術の発展とスポーツ熱風

金正恩総書記は文学・芸術とスポーツの発展に大きな力を入れ、この活動を人民大衆のための事業に転換させて、人民大衆を文学・芸術とスポーツの発展の担当者、創造者に押し立てた。

朝鮮において文学・芸術は、人々が社会の文明を先導していく上で正しい人生観と高尚な美しい精神的・道徳的品格を身につけ、社会主義強国建設に積極的に奮い立つようにし、スポーツは、国力を強め、祖国の尊厳と栄誉をとどろかせ、人民の民族的誇りと自負を高め、全社会に革命的気概が溢れるようにする上で極めて重要な役割を果たしている。

金正恩総書記は、文学・芸術部門で躍動する現実に即して思想性・芸術性が高く、人々の胸を打つ時代の名作を多く創作し、人民を真の文学・芸術の創造者、享受者とならしめるための活動を賢明に導いた。

2014年5月、総書記は第9回全国芸術家大会の参加者に送った書簡『時代と革命発展の要請に即してチュチェの文学・芸術の新しい全盛期を切り開こう』で、モランボン楽団の革新的な創作気風に見習って創作家、芸術家が芸術創作・創造活動で一大革新を起こす課題を示し、映画と舞台芸術、文学と大衆文化芸術、美術とサーカスをはじめとする文学・芸術の各分野で絶え間ない革新と飛躍を起こすようにした。

総書記は、金正日国防委員長によって組織され、人民に愛されたポチョンボ・エレクトロニック・アンサンブルを継承したモランボン楽団を組織し、国防委員長が愛した「モランボン(牡丹峰)」を楽団の名称にするようにした。

そして、モランボン楽団が伝統音楽と大衆音楽をバランスよく発展させ、人民の好みと情緒に合う民族固有の立派な作品を創作するとともに、時代精神と発展趨勢を敏感に反映させて公演で新しい形式と方法を絶えず作り出すようにした。

2012年7月、総書記は新たに組織されたモランボン楽団の模範公演を自ら指導した。

この公演は、モランボン楽団の誕生を告げる意義深い公演でもあった。

この日、公演を観た総書記は、音楽芸術は愛国心を植えつける上で重要な役割を果たすとし、公演でわが国の音楽と共に世界名曲も特色づけて形象化したが、われわれは全ての芸術活動を朝鮮式に行うべきであると強調した。また、モランボン楽団はわが人民と人民軍軍人を社会主義強国建設を目指す闘争へと奮い立たせる力強い武器にならなければならない、革命と建設を力強く推し進めるのに寄与する芸術を創造するという党の構想と意図をモランボン楽団が先頭に立って実現していかなければならないと強調した。

モランボン楽団の模範公演があってから間もなく行われた戦勝節慶祝モランボン楽団公演は、これまでの芸術公演や音楽会で見たことのない斬新な音楽世界を繰り広げて観客に深い感銘を与えた。

その後もモランボン楽団は、重要な契機ごとにその実力を遺憾な

く発揮し、人民に大きな自信と勇気を与えた。

金正恩総書記は、2014年2月の朝鮮労働党第8回思想活動家大会後、モランボン楽団が全人民を社会主義強国建設へと力強く奮い立たせるための思想攻勢の初の砲声をあげるようにした。

4・25文化会館では約一週間、人民の熱烈な賛辞を受けながらその名をとどろかせてきたモランボン楽団の公演が盛況裏に行われ、その後、モランボン楽団をはじめとする優れた芸術団体が全国各地を巡演して人民に勝利の信念と勇気を与えた。

このように、金正恩総書記の賢明な指導と配慮の下にモランボン楽団は設立当初から新世紀の朝鮮の芸術を代表し、先導する芸術団体として社会主義強国建設を目指す人民の総進軍を力強く促すことに寄与した。

総書記は、金日成主席の生誕100周年を迎えて人民劇場を最高のレベルで建設するように数回にわたって細心に指導し、劇場を造形化、芸術化が立派に実現した建築物、人民が好んで訪ねる劇場に建設するようにした。

総書記は、強力な芸術団体であるサムジョン管弦楽団を組織し、芸術創造活動を活発に行うようにし、サムジョン管弦楽団劇場を音楽芸術創造と公演に必要なあらゆる条件が備わった近代的な管弦楽生響劇場に立派に建設するようにした。

2018年10月、開館を前にしたサムジョン管弦楽団劇場を訪れた総書記は、長い時間をかけて劇場の内外部を見て回り、首都の中心部に立派な建物がもう一つ建てられて風致を際立たせている、人民が劇場を訪ねてとても喜ぶだろう、と満足げに言った。

金正恩総書記は大衆文化・芸能活動に深い関心を払い、人民大衆が文学・芸術の創造者、享受者として芸術の大衆化を高いレベルで実現していくように導いた。

2015年4月、総書記がある工場の機動芸能宣伝隊の公演を観た時のことである。

公演が終わると一番先に拍手を送った総書記は、公演の思想性が非常に高い、本当に感動させられた、今日の公演を撮影して寄こしてほしい、仕事で疲れるたびに見ることにする、と語った。

2016年7月、第2期第6回軍人家族のサークル公演で当選した単位の公演を観た総書記は、党の大衆文化芸術方針の貫徹で全社会の先頭に立っている軍人家族の公演成果に大きな満足を表し、2021年5月にも朝鮮人民軍軍人家族のサークル公演を観るなど、現地指導の道でたびたび人民と人民軍軍人の公演を観て、彼らが楽天的に生活し社会主義強国建設において奇跡と偉勲を立てるようにした。

金正恩総書記は、国の専門スポーツを発展させ、スポーツの大衆化、日常化を図って全国にスポーツ熱気を巻き起こすための活動を賢明に導いた。

総書記は2015年3月、第7回全国スポーツマン大会の参加者に『白頭(ペクトゥ)の革命精神でスポーツ強国建設の新たな全盛期を開いていこう』と題する歴史的な書簡を送った。

書簡は、国のスポーツを発展させるのは社会主義強国の建設においてわが党が重視することであるとし、短期間に国のスポーツ技術を世界的な水準に引き上げ、スポーツを大衆化、日常化し、スポーツの科学化水準を高めて、党の構想を立派に実現することについて強調した。

総書記は国の専門スポーツを画期的に発展させるために2012年1月、無線操縦模型航空機の模範競技と落下傘選手の模範競技を見て彼らと記念写真を撮った。この日総書記は、落下傘選手の中に夫婦選手がいることを知り、彼らとも記念写真を撮った。

その年の10月に第12回人民体育大会の体育団部門男子サッカー決勝戦を、11月には射撃選手の試合と女子バレーボール選手の試合を見た総書記は、その後、新たに建てられた人民屋外スケートリンクとローラースケート場を見て回り、スポーツの発展に関する貴重な助言を与えた。

2013年に入っても2月には朝鮮体育大学フェップル・バスケットボールチームと訪朝中のアメリカ・ハレム・グローブトロッターズ・バスケットボールチームとの混合試合を観戦し、3月と7月にはアーチェリー試合を見た。

また、9月にはアメリカのNBA元選手デニス・ロードマン一行と共に4・25チームと鴨緑江（アムロッカン）チーム間のバスケットボール試合を観覧し、国際重量挙げ連盟副委員長兼アジア重量挙げ連盟第1副委員長、アジア重量挙げ連盟の書記長と副委員長と共に2013年青年・成人級アジアカップ及びクラブ重量挙げ選手権大会の成人級女子63キロ及び69キロ級競技を見た。

国のスポーツの発展のために尽くす金正恩総書記の労苦は、スポーツへの社会的関心を高めて全国にスポーツ熱風を巻き起こし、それによって大きな競技成果が達成された。

朝鮮のスポーツマンは、2012年7月に行われた第30回オリンピック競技大会で大きな成果を上げて世界を震撼させたのをはじめ、数

多くの国際競技に参加して祖国の栄誉を輝かせた。

器械体操を見ても、第5回アジア体操選手権大会の男子跳馬と第45回世界器械体操選手権大会の男子跳馬で新しく難度の高い技術を披露した朝鮮選手の特技動作は世界体操界に大きな波紋を起こした。

総書記は、2012年10月には第30回オリンピック競技大会で優勝した選手や監督を、2013年7月には2013年東アジアカップ女子サッカー競技大会で優勝した選手や監督に会い、2014年にも第17回アジア競技大会と世界選手権大会で金メダルを獲得した選手や監督に会って競技成果を祝うなど、機会あるたびに国際競技で優勝して共和国旗をひるがえすスポーツマンこそ真の愛国者であり、英雄であり、立派な人であると高く評価した。

金正恩総書記は、日増しに発展するスポーツの世界的趨勢に即して、競技場をはじめとするスポーツ施設をより立派に整えるよう導いた。

2013年4月、羊角島(ヤンガクド)サッカー競技場を訪れた総書記は、新世紀の要求に即して競技場を立派に整える方向と方途を示し、8月に改築中の平壌体育館を視察し、改造・補修工事を質的に行って平壌体育館を高いレベルで整えるべきであると強調し、9月には改築された平壌体育館を再び訪れて改築状況をつぶさに確かめた。

その年の9月にメーデー・スタジアムを見て回り、競技場を国のスポーツ施設の象徴に、文明国の面貌にふさわしい競技場に改造・補修するよう指示した。

2012年11月に重量挙げ、ボクシング、レスリング、柔道、体操、

テニス、新体操の発展に要する数多くのスポーツ器材をスポーツ選手たちに贈った総書記は、12月にも各体育団に必要な運輸機材を贈った。

金正恩総書記はスポーツを大衆化、日常化し、スポーツに対する社会的関心を高めて、全国がスポーツ熱気で沸き立つようにした。

そして、平壌市と各地方にスポーツ施設を建設し、随所にスポーツ公園をつくって人民が思う存分スポーツ活動を行えるようにした。

そうして、馬息嶺スキー場と美林(ミリム)乗馬クラブをはじめとする近代的なスポーツ施設が新たに建設され、勤労者たちがスポーツ文化生活を思う存分享受できる条件が十分に整えられた。

総書記の深い関心の下に立派に整えられたスポーツ施設で専門体育団のスポーツ競技と職業別スポーツ競技大会、学校別スポーツ競技が全人民の深い関心の下に盛況裏に催され、随所に立派に整えられたスポーツ公園でも様々な試合が日ごとに熱気を帯びて行われ、ローラースケート、乗馬、スキーのブームが起こり、全国にスポーツ熱風が巻き起こった。

2013年6月、平壌国際サッカー学校を視察した総書記は、続けて綾羅人民スポーツ公園を訪れてバスケットボールコート、地上ホッケー場など各所を見て回りながら、最近、平壌市をはじめとする国の各地に大衆サービス施設が数多く建てられた、スポーツを大衆化、日常化できる拠点が整えられた結果、青少年と勤労者を労働と国防にしっかり備えさせることができた、と述べた。

2013年5月、国のスポーツを発展させるためには全社会にスポーツ雰囲気を盛り上げ、スポーツを大衆化すべきであると強調し、

全国にスポーツ熱風を巻き起こす上で部門別スポーツ競技を組織することもよい方法の一つであると言い、2017年10月にはスポーツを大衆化、日常化して全人民がスポーツを楽しみ、全国がスポーツ熱気で沸き立つようにすべきであるとし、今後主要祝日と記念日にスポーツ競技を組織して祝日の雰囲気を盛り上げるべきであると強調した。

総書記は祖国解放68周年記念前日の2013年8月14日、党と国家の責任幹部とスポーツマン、平壌市内の勤労者、青少年・学生と共に男子サッカー試合を見、5月には保健医療部門勤労者のメーデー記念スポーツ競技を観覧した。

総書記は選手たちが優れた競技場面を見せるたびに一番先に拍手を送り、スポーツ競技が終わった時には歓呼の声を上げる選手や観客に答礼し、彼らのスポーツ競技成果を祝った。

金正恩総書記は、全国に広がる大衆スポーツ熱風をさらに高調させるため、全国道対抗スポーツ競技を組織するようにした。

総書記は2013年9月、われわれは国のスポーツを一日も早く発展させるために国家的な措置を取り、社会的にスポーツ活動に多くの関心を払うようにしているとし、国のスポーツ発展のための国家的措置が生命力を発揮するようにすべきであると強調した。そして、新たに改造・補修された平壌体育館を開館する時にスポーツ競技を組織するのがよかろうとし、平壌体育館で道別の対抗競技を組織するよう指示した。

こうして2013年10月、平壌体育館では全国道対抗スポーツ競技が盛大に行われた。

平壌体育館に出向いた総書記は、朝鮮労働党創立記念日に際して行われた全国道対抗スポーツ競技大衆スポーツ部門の複数の種目の決勝戦を人民と共に観覧しながら、競技に参加した選手が高いスポーツ技術と多様な戦術、高尚な集団主義的精神を発揮し、立派な競技場面を披露するたびに真っ先に拍手を送った。

2023年2月と4月にも、民族最大の祝日である光明星節と太陽節に際して催されたスポーツ競技を観覧した。これは全社会にスポーツ熱風を巻き起こし、大衆スポーツを発展させる上で今一つの重要な契機となった。

全国にスポーツ熱気が沸き立つ中、2023年5月には首都平壌で「金属工業部門労働者スポーツ競技—2023」の決勝戦が盛況裏に催された。

総書記は、年中高炉の前で鉄湯を取るために苦労する金属工業部門労働者たちを平壌に招いてスポーツ競技を組織し、全世界勤労者の祝日メーデーを楽しく過ごすように措置を取ったのである。

鉄湯を扱う労働者の盛大なスポーツ競技はその名称からも分かるように極めて衝撃的で特異なものであり、その上サッカー試合に出場したのは全国の人民によく知られているチョンリマ製鋼連合企業所チームと金策製鉄連合企業所チームであった。その日の試合ではチョンリマ製鋼連合企業所チームが勝った。

その夜、スポーツ競技の結果を聞いて決勝戦がうまく行われたようだと言った総書記は、ふと、サッカー試合で優勝できなかった金策製鉄連合企業所の選手たちが肩を落としているのではないかと気を配った。

そして、明日スポーツ競技に参加した選手たちが帰るそうだが、金策製鉄連合企業所の選手たちにもチョンリマ製鋼連合企業所の選手たちと同じ賞品を与えるよう指示した。

こうして特異な「授賞式」が今一度行われることになった。

このように金正恩総書記の限りない献身と労苦は、文学・芸術とスポーツの発展において大きな革新をもたらし、社会主義強国建設に決起した朝鮮人民を大きく鼓舞した。

勤労者の文化生活

金正恩総書記は、新世紀の要求に合う近代的な大衆サービス施設と文化・情操生活の場を多く立ち上げて、全国に人民の幸せの笑い声がより高く響くようにした。

首都平壌はもちろん、離れ島に至る全国各地に人民の念願する理想的な住宅街と村落が建てられ、平凡な勤労者が近代的な住宅と寮で幸せに暮らし、陽徳(ヤンドク)温泉文化休養地のような文化・情操生活の場で人民の笑い声が溢れているのも総書記の献身的労苦によってもたらされた素晴らしい現実である。

首都平壌の大同江畔に立ち上がった立派な文化・情操生活の場は、総書記が人民のために歩み続けた献身の足跡を長く伝えている。

総書記は機会あるごとに、金正日同志の遺訓通りに東平壌地区に蒼光(チャングァン)院式の総合的なサービス施設を立派に整えて人民に提供すべきだとし、数回にわたって建設中の柳京院を現地で指導した。

柳京院建設場を訪れるたびに、今後柳京院が完工すれば人民に裕福で文化的な物質・文化生活を享受させるためにあれほど気を配った金正日同志の遺訓をもう一つ貫徹することになる、人民のための事業には満足というものがありえないことを銘記して工事を着実に進め、わが党が人民に贈る柳京院を遜色なく完成して、人民に幸せで文化的な生活を提供する人民の真のサービス施設につくるべきだと強調した。

2012年11月、再び柳京院を訪れた総書記は、竣工後にすぐ運営できるように準備が終わったという幹部の報告を聞き、柳京院が開業すれば人民が多く訪ねてくるだろうと満足げに言った。そして、柳京院は本当に素晴らしい、今日柳京院を見て回って大変満足した、今後、柳京院の運営とサービスに万全を期して人民が社会主義文化の創造者、享受者として幸せで文化的な生活を思う存分享受できるようにすべきだ、と再三強調した。

金正恩総書記は、風光明媚な大同江畔の紋繍地区に近代的な施設を備えた特色のある遊泳場を建てることにも深い関心を払った。

紋繍遊泳場建設にどれほど深い関心を払ったかは、総書記が数回にわたって建設現場に出向き、人民に贈る遊泳場を遠い将来にも遜色のない建築物として建設するように指導した事実からもよく分かる。

総書記は幹部たちに、紋繍地区に人民のための近代的な遊泳場を立派に建設する決心である、遊泳場の建設に必要な建設陣は私が編成する、紋繍地区にエルドラド式遊泳場を建設して人民により立派な文化・情操生活の場を贈ろう、と言った。そして、当時紋繍遊戯

場があった所に紋繡遊泳場を建設するようにその敷地を確定した。

総書記は、紋繡遊泳場を建設しながらそこに食堂などいろいろな施設をさらに配置するには多くの資金がかかるはずだ、だが、人民のための仕事なので何も惜しむことはない、資金のことは心配せずに設計を始めるようにと言った。

総書記は遊泳場の建設に関する数多くの形成案を見て指導し、数回にわたって建設現場を訪れて、建築物の特性と遊泳場の特色に合わせて建設する方向と方途を示した。

総書記の温かい人民愛によって2013年10月、紋繡遊泳場の竣工式が盛大に行われた。

今日、紋繡遊泳場には年中数多くの人々が訪ねて喜びとロマンの世界を繰り広げている。

真夏の猛暑が続くたびに紋繡遊泳場の魅力は一層強まり、真冬にも訪ねてくる人々で連日にぎわっている。

文化・情操生活の場をより多く、より立派に整備して人民を文明享受の主人にならしめようとする総書記の思索と労苦には限りがない。

金正恩総書記は、綾羅島を人民の遊園地として立派に整備するという金日成主席と金正日国防委員長の遺訓を体し、綾羅島に人民のための遊園地を建設するようにした。

2012年4月についで7月にも竣工を前にした綾羅人民遊園地を訪れた総書記は、綾羅島に近代的な遊泳場と遊戯場ばかりでなく、イルカ館まで設けたので綾羅島が人民の遊園地としては最高だと言える、綾羅島地区は名実共に勤労者と青少年が文化生活を思う存分楽

しめる総合的な人民の遊園地である、と大いに喜んだ。

それからしばらく経って綾羅人民遊園地の竣工式が盛大に行われた。

人民の夢と理想を実現させる総書記の賢明な指導の足跡は、総合的な温泉治療サービス施設、多機能化された複合スポーツ・文化休息の場である陽徳温泉文化休養地にも歴々としるされている。

総書記は2018年8月から行った数回の現地指導期間には言うまでもなく、その他にも建設に関する数十件の指示を与え、建設資材の提供状況を随時に確かめ、対策を講じた。

総書記が、陽徳郡の温泉地区に疾病治療や観光休息もできる総合的かつ近代的な温泉文化休養地のモデルを建設する構想を持って現地指導の道についたのは2018年8月であった。

この日、丘や山、くねくねした峠道を上り下りして陽徳郡温井(オンジョン)里一帯の温泉谷を見て回った総書記は、温泉の湧出量と周辺の環境をつぶさに確かめ、総合温泉旅館の敷地も定めた。

そうして、ひっそりとしていた温泉地区に人民の文化的休養地が素晴らしく建てられて2019年10月に竣工した。

いつか陽徳温泉文化休養地の建設現場を視察した総書記が野外温泉場区域を見て回る時、一幹部は悪天候もいとわずここを訪れた総書記の献身がなかったら、5千年の歳月が流れても目を向けなかったこのうってつけの場所を開発する考えは誰もできなかったでしょうと言った。

すると総書記は、幹部が人民に文化的な生活をさせるために頭を使うなら、長い歳月眠っていた地でも世界の人々が羨むほどの文化

施設のモデルを建設する場所を見付けられると、深い意味を込めて述べた。

幹部にとってその日のお言葉は、人民のためにいかに働くべきかを一層深く銘記させた意義深い契機となった。

総書記の精力的な指導によって、陽徳温泉文化休養地ばかりでなく全国の数多くの遊園地が立派に改築されて、人民の文化生活を十分に保障する休憩の場に変わるようになった。

金正恩総書記は、人民に何羨むことのない裕福な生活を思う存分享受させるため、馬息嶺スキー場の建設を発起し、遠い将来にも遜色がないように立派に完工するようにした。

総書記は2013年の一年だけでも、真夏の猛暑や12月の肌を刺すような寒さもいとわず、数回にわたって馬息嶺スキー場の建設現場を訪れて指導した。

2013年12月、完工した馬息嶺スキー場を訪れた総書記は、人民の利用するリフトなので自身がまず乗ってみなければならないとし、自らリフトに乗って頂点まで上り、その安全性と利便性を確認した。

金正恩総書記はこの他にも、人民に最高の文化生活を享受させるために限りない献身の道を歩み続けた。

総書記の献身の足跡は、青少年・学生と勤労者に動植物に関する多面的で豊かな知識を与えるための特色のある教育の場、文化休息の場として建設するようにした自然博物館にもしるされており、数回にわたって建設現場を訪れて指導し、完工後にはスケートとローラースケートに興じる子供たちとそこの従業員と記念写真を撮った

大同江畔の人民屋外スケートリンクとローラースケート場にもしるされている。

2012年11月、人民軍が使用していた馬場を勤労者と青少年の体力の鍛錬を図る乗馬場に作り直すことを発起し、乗馬場の名称も命名しながら人民のための大衆乗馬サービス施設として立派に整えた美林乗馬クラブなど、国の処々に立ち上がった文化・情操生活の場にも総書記の献身の足跡が歴々としるされている。

国の至る所に設けられた人民の文化・情操生活の場で見られる人々の幸せに満ちた姿は、誰にも平凡に感じられるものではない。

人民にこの世に何羨むことのない裕福かつ文化的な生活条件を与えようとする金正恩総書記の限りない献身と賢明な指導の下で、人民愛が凝縮された創造物が次々と立ち上がり、どこでも人民の幸せな笑い声がより高く響くようになったのである。

※　※　※

この地に社会主義強国を打ち建て、人民に最も幸せな生活を与えようとするのは、金正恩総書記の雄大な志であり、理想である。

壮大な創造大戦の先頭に立って不眠不休の献身の道を歩み続けた総書記の指導は、あれほど困難な条件と環境の下でもこの地に人民の理想が日ごとに実現する繁栄の時代を繰り広げ、それは朝鮮革命の前進を加速化し、祖国の歴史に特記すべき出来事を多発的にもたらした。

総書記の気高い為民献身の根底には何が置かれているのだろうか。

それは他ならぬ人民への愛と信頼である。

この世に人民より貴重な存在はなく、人民は天であり、人民があってこそ国家もあり、祖国もあるというのは総書記の信条である。

総書記は、金日成主席と金正日国防委員長を仰ぐように人民を崇め、人民のために温かい情と心血を注ぐことを祖国の富強・繁栄のための真の愛国と見なしている。

実に、この地の全ての幸福は、われわれが1年を苦労すれば祖国は10年も発展するという気高い人生観を身につけ、祖国の繁栄と人民の幸せのために歩み続けた金正恩総書記の為民献身の労苦によってもたらされた財産である。

為民献身の道程

執　筆：朴鉄準、李光勲
編　集：安鉄鋼
翻　訳：金光哲
発　行：朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
発行日：チュチェ113(2024)年2月

ㄱ- 230880102323

E-mail:flph@star-co.net.kp
http://www.korean-books.com.kp


ISBN 978-9946-0-2258-1

